

㊚ 全国の書店でご注文いただけます。お急ぎの場合は直接ご連絡ください／価格は税別です／本の詳しい情報は Web サイトをごらんください。

文学通信

★刊行図書のご案内★

いままで刊行した90冊の本を紹介します

2022.09



★デザイン★

<https://bungaku-report.com/about/design.html>

★インターネット中継・動画制作★

<https://bungaku-report.com/about/livestudio.html>

お気軽にお問い合わせ下さい

info@bungaku-report.com

〒114-0001 東京都北区東十条1-18-1 1-101

電話 03-5939-9027 FAX 03-5939-9094

info@bungaku-report.com

<https://bungaku-report.com/>

玉藻前アンソロジー 生之巻

朝里 樹編

ISBN978-4-909658-83-8 C0095

A5 判・並製・336 頁

定価：本体 1,900 円（税別）

2022
刊行

世界が始まり、悪狐が目覚める――。

人間離れした美貌を持ち、人を超えた才知をほこり、数千万の軍隊を相手に戦うことができる強さを持つ、伝説上、最「恐」のヒロイン、玉藻前（たまものまえ）。しかし本邦には玉藻前を扱った作品が膨大に存在するにもかかわらず、広く読める現代語訳がありません。

本書は大の玉藻前好きであった著者が、「誰でも玉藻前に触れることができ、彼女の魅力を広めることができるならば」と、膨大な作品群を現代語訳で編んだアンソロジー、『玉藻前（たまものまえ）アンソロジー 殺之巻』につづく第二弾！

本書には6作品を収録。近世を代表する玉藻前作品、読本『絵本玉藻譚（えほんたまものものがたり）』。中国の殷において妖妃・妲己として淫楽の限りを尽くし、天竺にて花陽夫人という美女となって残虐を極め、日本に渡り玉藻前となって暗躍するという物語。岡田玉山によって作られ、文化二年（一八〇五）に刊行されました。中国、天竺、日本の三国における九尾の狐の活躍が生き生きと描かれており、現代の玉藻前のイメージを形作った作品のひとつで、玉藻前好きであれば一読の価値あります。『絵本増補 玉藻前旭袂（えほんぞうほ たまものまえあさひのたもと）』は元は『玉藻前旭袂』という作品。合作の浄瑠璃であり、寛延四年（一七五一）に初上演。大幅に脚色され、『絵本増補 玉藻前旭袂』として文化三年（一八〇六）に初演されました。三国を巡る九尾の狐の物語ですが、妖狐を倒すための「獅子王の剣」、自分の正体を明かし、人間と共謀して暗躍する玉藻前など、他の作品では見られない要素も盛り込まれています。また、現在でもよく上演される「道春館の段」など、濃厚な人間ドラマが描かれている点にも注目です。

『狐川今殺生石』は、玉藻前にかかわる作品でありながら、玉藻前が直接登場しない珍しい作品。舞台は江戸時代。かつて玉藻前を倒した伝説の残る上総介と三浦介の子孫に対し、玉藻前の子孫の狐たちが復讐を遂げようとします。

「関連資料」には大江匡房によって記された『狐媚記』。これにも玉藻前は登場しませんが、日本で初めて妲己が九尾の狐であることに言及した作品として知られています。『神明鏡』は南北朝時代に書かれた年代記ですが、玉藻前について記された最も古い書物として知られています。『狂歌百物語』は様々な妖怪に纏わる狂歌を集め、編纂したものです。今回はその中の玉藻前に纏わる狂歌を集め、現代語訳と解説を行いました。

付録エッセイに、「中世の玉藻の性格」伊藤慎吾（國學院大學栃木短期大学准教授）を収録。

【玉藻前には様々な魅力があります。天地開闢とともに生まれたというスケールの大きさ、長い年月を生き、死してもなお殺生石となって毒を捲き散らかした生命力と執念深さ、次々と国を滅ぼすほどの人間離れした美貌、あらゆる事物にも精通する才知、神通力を自在に操り、その身一つで武士や兵士たちと戦った強さなど、挙げればきりがありません。中世から現在に至るまで、玉藻前が様々な物語に登場するのは、私のように彼女の魅力に惹かれた人々が数多にいたからなのでしょう。本書を通し、そんな玉藻前の魅力を少しでもお伝えすることができたならば、幸いに思います。】

好評既刊●アンソロジー第一弾『玉藻前アンソロジー 殺之巻』
ISBN978-4-909658-59-3 A5 判・並製・376 頁 定価：本体 1,900 円（税別）
御伽草子『玉藻の草子』、謡曲『殺生石』、『絵本三国妖婦伝』、『糸車九尾狐』、『那須記』等収録

【目次】

まえがき―スケールの大きな妖怪、玉藻前

玉藻前の物語／玉藻前ブーム／本書の構成

主要登場人物辞典

足利義満／安部泰成／上総介／華陽夫人／化生前／玄翁和尚／妲己／紂王／鳥羽上皇／斑足太子／褒姒／三浦介／幽王

凡例

『絵本玉藻譚（えほんたまものものがたり）』（読本）

第一章 蘇妲己、駅堂にて化け物となる／第二章 雲中子が木剣を献上する／第三章 紂王が姜皇后を殺める／第四章 西伯が燕山にて雷震を得る／第五章 西伯と南伯が表を奉り、紂王を諫める／第六章 紂王は羑里城に西伯を捕らえる／第七章 紂王が酒池肉林を作る／第八章 西伯は捕らわれの身から解放され、岐州に帰る／第九章 呂尚、殷の京を避け、磻溪に隠れる／第十章 西伯侯が磻溪の子牙を訪れる／第十一章 西伯侯は再び子牙を招来する／第十二章 武王は兵を起こして殷辛を討つ／第十三章 太公望が高明高覺を破る／第十四章 三仁が去り、成湯を陥れる／第十五章 太公望が五将を捕虜とする／第十六章 妖狐が西に向かう／第十七章 斑足王が花陽夫人を得る／第十八章 斑足王が獅子に僧を食らわせる／第十九章 花陽夫人が采姫を射る／第二十章 斑足王は浄瑠璃国で狩りをする／第二十一章 花陽夫人が真の姿を現し、天竺を飛び去る／第二十二章 鳥羽院のこと／第二十三章 坂部道春が子を清水観世音に祈る／第二十四章 鳥羽法皇の白河行幸／第二十五章 鳥羽法皇が玉藻前を寵愛する／第二十六章 兵庫頭頼政が怪鳥を射る／第二十七章 菅浦前が怪を語る／第二十八章 美福門院が計画を立て、妖怪を取り除く／第二十九章 玉藻前が幣取に命じられる／第三十章 安倍康成が妖怪を調伏する／第三十一章 藤原保隆の妻子が分身する／第三十二章 三浦介、上総介が勅命を蒙り、東国に下る／第三十三章 両介は那須野で野干を狩る／第三十四章 百日に渡り射術を鍛錬する／第三十五章 老狐が命を落とす／第三十六章 殺生石が怪をなす／第三十七章 悪霊が善道に帰す／最終章 玄翁が石を砕いて狐怪を滅す

『絵本増補 玉藻前旭袂（えほんぞうほ たまものまえあさひのたもと）』（浄瑠璃）

第一の一 天竺の沙牟呂山の段／第一の二 同麓の段／第一の三 蘭亭宮の段／第二の一 妲己入内の段／第二の二 太公望の漁の段／第二の三 紂王御殿の段／第二の四 楼門の段／第三の一 清水の段／第三の二 道春館の段／第四の一 神泉苑の段／第四の二 廊下の段／第四の三 十作住家の段／第五の一 訴訟の段／第五の二 祈の段／第五の三 那須野の原の段

『狐川今殺生石（きつねがわいませっしょうせき）』（狂言）

関連資料

『狐媚記』／『神明鏡』／『狂歌百物語』より玉藻前参考資料

【付録エッセイ】中世の玉藻の性格…伊藤慎吾（國學院大學栃木短期大学准教授）

【付録】主要人物相関図（『絵本玉藻譚』・『絵本増補 玉藻前旭袂』・『狐川今殺生石』）



俳句がよくわかる文法講座

詠む・読むためのヒント

井上泰至・堀切克洋

ISBN978-4-909658-79-1 C0092

A5判・並製・320頁

定価：本体1,900円（税別）

2022
刊行

最少の言葉で詩を追求する俳句。様式から美を生み出す俳句。

そこには文語というヒミツがある。

『風と共に去りぬ』が『風と共に去った』では間が抜けたようになるのはなぜなのか。本書は、いまなお文語を使い続け、俳句を詠む／読むために文語文法が必要とされている理由をくわしく説明し、詩の言葉、文語のヒミツをマスターする、とっておきの文法講座、全14章。

読むうちに文法への心構えと注意点が身に付きます。単に公式を当てはめるだけではない、文法理解のために、必携の一冊！

【俳句はルールによって、多くの作者や読者を呼び込み、日本語の長い伝統を踏まえ生かしていく詩ですから、古語の知識やルールをある程度わきまえておく必要があります。特に古典文法は、現代語に引きずられて捉えられがちなので、我知らず文法の間違った俳句を詠んで、様にならないことがあります。本書では、必要な古語や文法の知識に絞って、それがなぜ問題になるのか、その背景を解きほぐしながら、読むうちに文法への心構えと注意点が身に付くように編集しました。】……はじめにより

【目次】

はじめに●なぜ俳句と文法なのか？

文語の豊かさ／文語は詩の言葉／本書の構成とねらい／名句に例外あり

第1部 基礎編 文語文法が必要とされている理由を学ぶ

第1章●俳句は文法の、文法は俳句の教材

「体言止め」と「連体止め」／「名詞」の文学の伝統／ラストシーンが作品全体を印象付ける／「連体中止」「連体仮止め」「連体省略」／俳句は文法で輝き、文法は俳句で深くなる／自動詞・他動詞／てにをは――日本語の醍醐味

第2章●俳句で古典文法―自己点検してみる

基礎編一切れ字の接続／中級編一過去をあらわす言葉の使い分け／上級編一決め手は省略

第3章●文体を意識する―「たり」「なり」「をり」「あり」

「たり」か「なり」か／「あり」「をり」と否定表現／〈ありにけり〉の発見／「ふるまい」のリズム／虚子の道のり／古典の粹―近代日本画との通底／時の移ろい―品格の意匠

第2部 実践編 俳句文法のポイントをマスターする

第4章●俳句の四つの構造と文体―文語か口語か

どうして俳句に「文語」が必要なの？／古典文法と文語文法／文語文法はレトリック／①名詞連続体／②文語体／俳句は主題と述語でできている／③文章体／④口語体

第5章●文法と詩のあやしい関係―「正しさ」はどこにあるのか
文法的「正しさ」を求めて／「正しさ」とは何か／未来としての俳句／俳句における「回想」／文語文法は「時間の旅」の入口／口語文法も進化する／文法なき文法？

第6章●かな・漢字・アルファベット―俳句の表記〈1〉

椎名林檎はなぜ「旧かな」を使うのか／かなづかいの「揺れ」／「かぶき」としての旧かな／変体がな＝くずし字の世界／万葉がなというあそび／漢字・ひらがなの特性／カタカナばかりの俳句／俳句とアルファベット／字音ふたたび……／送りかなの原則

第7章●句読点・記号・改行―俳句の表記〈2〉

俳句に句点は不要か？／さまざまな読点／空白、中黒、カギカッコ、

山カッコ／踊り字／改行／その他の記号

第8章●旧字・新字・ルビ―俳句の表記〈3〉

旧字体と新字体／「灯」か「燈」か？／「常用漢字表」の改定／表外字と表外音訓／「印刷標準字体」の制定／漢字は表意＝憑依する／さらに複雑なのは「人名」／「桜」か「櫻」か、「螢」か「螢」か／俳句における「慣用読み」／外来語と当て字／外来語をルビで処理する／三文字で俳句ができる？

【コラム】書道・崩し字と俳句文法

第9章●アスペクトを使いこなそう―俳句の時間表現〈1〉

時を豊かにするアスペクト／いたる、ている、てある（進行のアスペクト）／つつ、続く、おり（継続のアスペクト）／ところ、かける、そうな・ような（直前のアスペクト）／はじめる・初める、ゆく・くる、（開始のアスペクト）／である、でありにけり／がある、がありにけり／果つ、終う、止む…（終了・完了のアスペクト）

第10章●過去と完了は何が違うのか―俳句の時間表現〈2〉

時の助動詞①―「つ」「ぬ」グループ／時の助動詞②―「り」「たり」グループ／過去と完了は本当に違うのか？／時の助動詞③―「き」「けり」グループ／「けり」は本当に〈詠嘆〉か？／「文章体」には時があるか？

第11章●文語体の今昔〈1〉―古代から中世まで

文語と口語は明治時代に生まれた！／「文語」の歴史の変遷／《奈良上代時代の文法・語法》／①ク語法・ラク語法／②ミ語法／③助詞「ゆ」／④助動詞「ふ」／⑤助詞「はも」／《鎌倉時代の文法・語法》／①連体形の終止形化／②係り結びの変容／③二段活用的一段化／④カリ終止／⑤「たし」の一般化／⑥「ぬ」の終止形化／⑦主格・接続助詞の「が」／⑧つつ→ながら、ばかり→ほど／⑨濁点の許容／《室町戦国時代の文法・語法》／①ている、てある、ておく／②てやる、てくれる、てもらう／③「そうな」の普及／④「まじ」から「まい」へ／⑤「さえ」「くらい」の普及／どうして「俳諧」が理解できるのか

第12章●文語体の今昔〈2〉―近世から現代まで

《江戸時代の文法・語法》／①上五末の「や」／②〈完了の継続〉の「てある」／③四段化の進行（＝〈-uru〉の衰退）／④仮定条件の「已然形＋ば」／⑤押字・留字／《明治・大正・昭和前期の文法・語法》／①切字「けり」の増加／②名詞の動詞化／③切字の後退／④助詞「は」の台頭／⑤助詞「の」の万能化／⑥配合の「かな」／《一九四五年以降の文法・語法》／①現代口語（話し言葉）の採用／②文語＝活用語の誤用／③名詞・体言以外に接続する「かな」

第13章●歴史的かなづかいのヒミツ〈1〉―母音・濁音

間違えやすい「歴史的かなづかい」①―母音編／「歴史的かなづかい」におけるワ行／「歴史的かなづかい」におけるハ行／「歴史的かなづかい」におけるヤ行／間違えやすい「歴史的かなづかい」②―濁音編

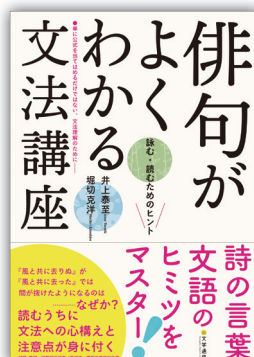
第14章●歴史的かなづかいのヒミツ〈2〉―長音・拗音

間違えやすい「歴史的かなづかい」③―長音編／「母音」単独の表記が変わるケース／複数の母音をもって長音をあらわすケース／間違えやすい「歴史的かなづかい」④―拗音編／「くわ」「ぐわ」（合拗音）

【コラム】句会をやってみよう

○対面句会／1 俳句をつくる（作句）／2 短冊に句を書く（出句）／3 句を清書する（清記）／4 句を選ぶ・読み上げる（選句・披講）／5 意見を言い合う（講評）／○オンライン句会の現在／○吟行／6 講評と文法

付録●動詞・助動詞活用表／付録●新字体・康熙字典体対応表／俳人・歌人名索引



古典教育をオーバーホールする

国語教育史研究と教材研究の視点から

菊野雅之

ISBN978-4-909658-87-6 C1037

A5 判・並製・280 頁

定価：本体 2,700 円（税別）

2022
刊行

「なぜ古典を学ばなければならないのか」という生徒たちの声にどう応えていくのか。これからの古典学習論のために、国語教育に携わるすべての人の必読書。

生徒たちの声に応えるにはまず、いつから古典教育は始まり、今に至ったのかという、古典教育史を分解・点検しなければならない。本書は、従来、戦後から唐突にはじまってきた古典教育史を見直し、教材研究のあり方を問い、現在そして未来の国語科教育の理論を形成するための基盤を整えようとする。

近代における古典の教材的価値の成立の様相を明らかにしながら、一方で、現代における古典教育（教材）の問題点を指摘し、過去と現在を行き来しながら、古典教育の機能を考えなおす書。

【機械を部品単位で分解・点検し、必要な修復や部品の交換を行い、新品時の性能を発揮する状態に戻すことを「オーバーホール」（Overhaul）という。機械式時計であれば数年に一度はオーバーホールが必要と言われている。本書では明治から現在に至るまでの古典教育史を分解し、点検を行っていく。どこかに摩耗してしまった交換すべき部品はないだろうか。その摩耗した部品を引き続き使い続けようとはしていないだろうか。古典教育をオーバーホールすることで、古典教育の機能を新たな形で復活させる糸口をつかむことが本書の試みである。】…はじめにより

【目次】

はじめに—古典教育史を分解・点検し、教材研究のあり方を問う

一 本書の背景・意義・目的／二 本書の方法と「古典」の定義／三 本書の構成と各章の概要

第一部 近代中等国語読本の歴史から問う

第一章 古典教育の始発としての近世往来物と『平家物語』—近代教育史研究を相対化する／二 教材としての平家物語の始まり—一六〇〇年前後／三 キリシタン版『和漢朗詠集』／四 もう一つの平家教材—天草版『平家物語』／五 平家往来の展開—素読・手習い教材としての古状揃／六 古状揃における学習上の工夫／七 通俗歴史・伝奇小説としての『平家物語』

第二章 近代最初期の古典教科書の成立—稲垣千穎編『本朝文範』『和文読本』『読本』—明治初期の教材史から古典教育を考える／二 古典教科書の始まりはいつなのか／三 稲垣千穎について／四 『本朝文範』『和文読本』の立場／五 和文主義と普通文創出の軌轢／六 稲垣千穎の再評価と批判

第三章 近代中等国語科教育の枠組みの形成—高津鋏三郎立案『国語科（中学校／師範学校）教授法』／二 「教授法」の成立経緯と背景／三 「教授法」に示された国語科の内容／四 「教授法」作成者らの国語教育観／五 普通文教育への志向

第四章 明治の教科書編集者・新保磐次と「普通文」の実現—稲垣千穎から新保磐次へ／二 新保磐次について／三 新保の目指した言文一致体／四 『中学国文読本』『中学国文史』と「要領」／五 教材の選定基準／六 「普通文」を錬磨するための古文学習

コラム（1）「古典探究」における新出の指導事項

第五章 明治始発期の日本文学史は『平家物語』をどう捉えたか—三上参次・高津鋏三郎『日本文学史』における古典の評価／二 日本文学史—教材としての始発／三 日本文学史という方法論—風巻景次郎の発言を中心に／四 言文一致体の完成と古典教

材観

第六章 教科書に導入される言文一致体—落合直文編『中等国語読本』について—一 中等国語読本における言文一致体導入の時期／二 明治三五年検定本『中等国語読本』の教材選定基準／三 中等国語科における言文一致体の導入／四 言文一致体の採用の契機と意図／五 古典教育の根拠の消滅と再生についての見直し

第七章 古典は誰のものか—保科孝一の言説を手がかりに—一 古典の価値を自明視した古典教育論／二 「国民の性情の陶冶」「国民性の涵養」という古典教育の根拠が見えなくなってきたもの／三 古典は誰のものか／四 学習者と古典の関係を再構築する

コラム（2）読むことの学習過程から古典学習を構想する

第二部 古典とはどのような教材なのか

第一章 古典を教材化するための視点を求めて—第二部の位置づけについて／二 古典教育論を進めていくための知見を整理する／三 カノン研究の成果と課題／四 古典教材の文学史的把握から学習者主体の教材発掘へ／五 教材研究の視点

第二章 「扇的」教材論—古典学習の構築の視点（1）—教材研究が振り落としてきたもの／二 無視される「ふるつはもの」の言葉／三 義経は与一を殺すのか／四 研究者に求められる専門性を活かした教材研究

第三章 「敦盛最期」教材論—古典学習の構築の視点（2）—武士道というフィルター／二 『平家物語』の戦場／三 供養と発心の物語に組み込まれる首実検／四 諸本から見る「敦盛最期」、教科書から見る「敦盛最期」／五 首実検について／六 教材化されない狂言綺語の語りおさめ／七 古典教材の他者性

第四章 「敦盛最期」単元案—古典学習の構築の視点（3）—諸本比較しながら定番教材を読み直してみる／二 直実の判断／三 首と笛／四 敦盛の首の行方／五 中学生が「敦盛最期」を読むことの難しさをどう乗り越えるか

コラム（3）「古典探究」の指導事項を分析する

第三部 史料

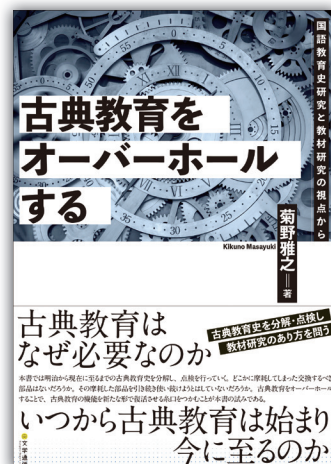
第一章 落合直文『中等国語読本』の編集経緯に関する基礎的研究—二冊の編纂趣意書と補修者森鷗外・萩野由之—落合読本研究の現状と課題／二 『中等国語読本編纂趣意書』／三 『訂正中等国語読本編纂趣意書』／四 『中等国語読本』の補修者たち／五 古典教育のゆらぎはまだ確認できず

コラム（4）実用的な文章・説得的な文章としての平家物語

第二章 稲垣千穎 松岡太愿編輯『本朝文範』上巻 緒言—一本史料の価値／二 凡例／三 『本朝文範』上巻緒言（一丁表～十七丁表）

第三章 今泉定介「中等教育に於ける国文科の程度」（『教育時論』三三四号 明治二七年七月）—今泉定介について／二 「中等教育に於ける国文科の程度」の歴史的位置付け／三 本史料の概要／四 史料 今泉定介「中等教育に於ける国文科の程度」（『教育時論』三三四号 明治二七年七月二五日 十四～十六頁）

第四章 物集高見『新撰国文中学読本』（明治三〇年三月十五日発行 金港堂出版）—物集高見について／二 『新撰国文中学読本』の特徴と発行当時の時代状況／三 凡例／四 史料『新撰国文中学読本』「例言」「緒言」「目次（全十冊）」 おわりに



文学授業のカンドコロ

迷える国語教師たちの物語

助川幸逸郎・幸坂健太郎編著
岡田真範・難波博孝・山中勇夫共著

ISBN978-4-909658-80-7 C1037

四六判・並製・232頁

定価：本体1,900円（税別）

2022
刊行

小中高の国語の授業、必携書！

国語の授業で、現場の教員が一番悩んでしまう「視点」「語り手」についてわかりやすく伝え、考える、今まであるようでなかった本です。

本書は、文学教材をより深く理解するための「視点」「語り手」を、なるべくわかりやすく現場の先生方に伝えるべく、物語仕立てでお届けします。

取りあげる教材は、「ごんぎつね」（新美南吉）、「走れメロス」（太宰 治）、「羅生門」（芥川龍之介）、「海の命」（立松和平）、「少年の日の思い出」（ヘルマン・ヘッセ 高橋健二訳）、「鏡」（村上春樹）、「白いぼうし」（あまんきみこ）、「故郷」（魯迅・竹内 好訳）、「舞姫」（森 鷗外）。本文中で引用するほか、全文を巻末に掲載しました。また随所にコラムを配し、「視点」「語り手」のことを理解できるように努めました。

文学が私たちにどんな影響を及ぼすのか、私たちがなぜ文学を国語教室で子どもたちに読ませるのか。これらを根源的に考えるために。時代が変わっても、本質的な問いを立て続け、子どもたちと考え続けるために。考え抜いて作った本です。

同時に物語読解のための、「視点」「語り手」について学ぶための入門書にもなっています。

執筆は、助川幸逸郎、幸坂健太郎、岡田真範、難波博孝、山中勇夫。執筆協力に、井浪真吾（岡山理科大学教育学部講師）、金田唯人（北海道根室高等学校教諭）、菊野雅之（北海道教育大学釧路校准教授）、鈴木愛理（弘前大学教育学部准教授）、高瀬裕人（琉球大学教育学部准教授）、難波健悟（岡山県立岡山操山高等学校教諭）。

【「現場の先生たちは、いそがしい」。ワタシが役に立てることは、何かないものだろうか——。日本文学研究者のスケガワは、今日もそんな思いで、国語の先生たちの勉強会に参加する。

子どもたちを前に、授業に力を尽くしたいと考えている仲間、ヤマナカ先生、ナンバ先生、オカダ先生、加えて学生のコウサカ君とともに日々、文学授業の勉強会をひらいているのだ。

本書は、そんな迷える国語教師たちによるある日の勉強会の物語。何やら楽しげですよ。】

【目次】

メイキング・オブ・この本 ●助川幸逸郎

凡例

まえがき、のようなもの—スケガワ先生の独白—

登場人物紹介

第1章 「視点」を意識する—ごんぎつね・走れメロス・羅生門

1 「走れメロス」は友情の物語だと思っていたが……

【コラム】「視点」（岡田真範）

2 物語や小説には「視点」がある

3 「ごんぎつね」と視点—仕掛けられたトラップ？

4 視点は行ったり来たりする

5 「羅生門」を下人以外の視点で読んでみる—「作者」という目

立ちたがり屋

6 日本語の書きことばの特性

7 文学の「視点」は同時代の世界の問題にもつながる

後日談 スケガワ先生から出された宿題に対する、コウサカ君の回答

第2章 「語り手」を意識する—海の命・少年の日の思い出・鏡

1 「鏡」は本当にあったのか

2 事情聴取—「事実」や「真実」はそのまま語られるのか？

【コラム】「語り手」（山中勇夫）

3 では「海の命」の語り手は？

4 語られた内容から語り手の思いを探る

5 「少年の日の思い出」の語り手を考えてみる

第3章 「語り手」にも認識できない世界を意識する—白いぼうし・故郷・舞姫

1 「語り手は万能、一番えらい」ではうまくいかない

2 語り手に共通する問題点

3 「白いぼうし」の語り手の背後にある世界

4 語り手にも認識できない世界の論理

5 「舞姫」の語り手の背後にある世界

6 「作品の語り手」「語り手を語らせている存在」「作者」はそれぞれ違う

【コラム】「語り手をいまある姿で語らせている存在」と「作者」（助川幸逸郎）

7 「自分と違う世界」への扉をどう開くのか

8 「故郷」の語り手の背後にある世界

9 読者に問いかけるための設定

■作品集

ごんぎつね（新美南吉）（出典『国語 四 下 はばたき』光村図書出版株式会社、二〇二〇年）

走れメロス（太宰 治）（出典『国語 2』光村図書出版株式会社、二〇二一年）

羅生門（芥川龍之介）（出典『高等学校 改訂版 国語総合』株式会社 第一学習社、二〇一七年）

海の命（立松和平）（出典『国語 六 創造』光村図書出版株式会社、二〇二〇年）

少年の日の思い出（ヘルマン・ヘッセ 高橋健二訳）（出典『国語 1』光村図書出版株式会社、二〇二一年）

鏡（村上春樹）（出典『村上春樹全作品 1979～1989 ⑤ 短篇集 II』講談社、二〇〇五年）

白いぼうし（あまんきみこ）（出典 作：あまんきみこ・絵：北田卓史『車のいろは空のいろ 白いぼうし』ポプラ社）

故郷（魯迅・竹内 好訳）（出典『国語 3』光村図書出版株式会社、二〇二一年）

舞姫（森 鷗外）（出典『高等学校 改訂版 現代文B』株式会社 第一学習社、二〇一八年）

あとがき、のようなもの—コウサカ君の独白—

本当のあとがき ●幸坂健太郎



職業作家の生活と出版環境

日記資料から研究方法を拓く

和田敦彦編

ISBN978-4-909658-82-1 C0095

A5 判・並製・282 頁

定価：本体 2,700 円（税別）

2022
刊行

作家、とりわけ、忘れられた作家やマイナーな著述を研究するとはどういうことか。どういう表現を、どういう作家や資料を、文学研究はとりあげるべきなのか。研究方法そのものを問い直し、文学研究の意義や方法を新たに見出していこうとする書。本書は、ある一人の職業作家の、生活と出版環境との関わりに踏み込み、作家や小説の価値をとらえなおそうとする。そこではどういう点に、作家を研究する意味、面白さは見いだせたのだろうか。

その作家の半世紀にわたる詳細な日記から、小説の解釈、あるいは作家の伝記的な事実確認といった従来の文学研究を超えて、生活者としての作家の情報をもとに、出版・読書環境を浮き彫りにし、その変化をとらえ、戦後の長い時間的なスパンの中で、作家が職業として読み、書く行為をとらえる。本書により、文学研究は、その対象や方法の可能性を広げ、他の研究領域と問題意識や関心を共有してゆくことも可能になるであろう。

本書は論考編と日記データ編の二部構成となる。論考編である第一部「作家とメディア環境」は、それぞれの論者の問題意識から日記データを活用しつつ展開した論文によって構成。そして第二部「日記資料から何がわかるか」は、日記データのうち、作家の生活に大きく作用していることが日記からうかがえるテーマを中心に、日記本文が読めるよう日記の記述を抽出し、集成する。最後に人名リストを付す。執筆は、須山智裕／加藤優／田中祐介／中野綾子／河内聡子／大岡響子／宮路大朗／康潤伊。

【本書は最初に述べたように、榛葉英治を偉人化、神聖化することに関心を向けてはいない。また、その小説自体に不変の価値を見出そうとしているのでもない。そうした自立（孤立）した価値を対象に見出そうとしているのではなく、その時期の流行や出版環境、経済状況といった諸々の、いわば「不純な」要因と関係し合ったものとして作家や小説の価値をとらえることに関心を向けている。そしてこうしたとらえ方をする際に非常に有効なのが、日記という日々の多様な情報を含んだ資料であった。小説を書くという営みを、文学という「純粋な」思考の中でとらえるのではなく、職業としての作家を生きる雑多な生活情報や人間関係のネットワークの中でとらえられるからである。】……あとがきより

【目次】

はじめに—文学研究の方法とリソースの可能性（和田敦彦）

第1部 論考編—作家とメディア環境

【作家とカストリ雑誌のせめぎ合い】

第一章 カストリ雑誌に消費された純文芸作家—榛葉初期作品における「性」と肉体—（須山智裕）

はじめに／一、「蔵王」における男女の「復活」／二、「蔵王」評—「肉体文学の新版である」／三、『りべらる』の稿料の代償／おわりに

【モデル小説の権利問題と影響力】

第二章 モデル小説の応酬とその批評性—榛葉英治『誘惑者』と四条寒一「縄の帯」—（加藤優）

はじめに／一、榛葉英治と四条寒一／二、四条寒一をモデルにして—榛葉英治『誘惑者』—／三、榛葉英治をモデルにして—四条寒一「縄の帯」—／四、若者をまなざす視線／おわりに

【戦後の文芸メディア変動の力学】

第三章 純文学を志向する中間小説作家・榛葉英治—文芸メディア

変動期における自己像の模索とその帰結—（田中祐介）

はじめに／一、「中間小説」登場期の文芸メディア変動／二、「通俗」「中間」「純文」の狭間の自己像／三、更なるメディア変動のなかで—直木賞志向への転換／おわりに

【文学と映画の関わり】

第四章 一九六〇年映画と文学のすれ違う共闘—榛葉英治『乾いた湖』の映画化による改変をめぐる—（中野綾子）

はじめに／一、『乾いた湖』の映画化経緯／二、映画『乾いた湖』の改変／三、『太陽の季節』の影響／四、映画原作者としての榛葉英治／おわりに

【戦争の記憶とその継承】

第五章 作家が描いた引揚げ体験と南京大虐殺事件—『城壁』との関わりから—（和田敦彦）

はじめに／一、『城壁』の成立／二、資料の扱い／三、描き方の特質と忘却／四、引揚げ体験という韌帯／おわりに

【「美しい日本」の懐古と追憶】

第六章 作家はなぜ「釣り」を書くのか—榛葉英治『釣魚礼賛』を起点に—（河内聡子）

はじめに／一、趣味としての「釣り」、主題としての「釣り」／二、書く対象としての「釣り」の意識／三、文学における「釣り」の系譜／四、「釣り」を書くことをめぐる葛藤／五、『釣魚礼賛』の受容と評価—「日本の原風景」の記憶と記録／六、懐旧の回路としての『釣魚礼賛』／おわりに

【人生から引き剥がせない記憶】column 引揚げ作家の満洲経験を紐とく（大岡響子）

第2部 データ編—日記資料から何がわかるか

日記への関わり方—日記のなかに書かれた「日記」の記録【一九四八年（三六歳）～一九九二年（八〇歳）】／【表1】 日記を記した日数／【表2】 日記の執筆日数、量（字）の推移／【表3】 一日平均の執筆量（字）の推移

作家の経済活動—金銭収支の記録【一九四六年（三四歳）～一九九八年（八六歳）】

【表】 榛葉英治の著作リスト—一九五五—一九五六年（原稿料記載ありの抜粋）【図】 日記紙面に設けられた「作品録」

文壇グループの動態—人脈の記録【一九四九年（三七歳）～一九九二年（八〇歳）】

十五日会・十日会／下界の会・波の会／魚と遊ぶ会／宴の会／物の会

雑誌メディアへの言及の変遷—雑誌に関する記録【一九四六年（三四歳）～一九九八年（八六歳）】

【図】 日記中に貼られた雑誌広告

「癌」という病—癌に関する記録【一九四九年（三七歳）～一九九七年（八五歳）】

飲酒・節酒と職業作家—飲酒の記録【一九四七年（三五歳）～一九九八年（八六歳）】

【表】 酒類の語彙の頻度、及び共に現れる語彙【図】 禁酒打開策『日記』（一九七一年一月二日）

作家の日常に見えた戦後史の風景—時事に関する記録【一九四六年（三四歳）～一九九七年（八五歳）】

【図】 『日記』一九九二年三月二〇日「北方四島問題」など時事の関心事について紙面を割く。

【日記に基づいて生成される自伝】

column 日記と自伝の間（河内聡子）

日記人名リスト—出版メディア関係者一覧（康潤伊）



人文学のためのテキストデータ構築入門

TEI ガイドラインに準拠した取り組みにむけて

一般財団法人人文情報学研究所監修

石田友梨・大向一輝・小風綾乃

永崎研宣・宮川 創・渡邊要一郎編

2022
刊行

ISBN978-4-909658-84-5 C0020

B5 判・並製・424 頁

定価：本体 3,000 円（税別）

より効果的にテキストデータを蓄積・共有し、広く世界につなげるために、人文学研究においてテキストデータはこれからどう作っていけばいいのか。私たちの読みを残し、共有し、たどれるようにする、あるいはどう読んだかを次世代に継承するためには、どういった処理や方法が必要なのか。今後の人文学研究にとって必須のテキストデータ構築の方法を、丁寧に解説、紹介していく書です。欧米ではすでに、こういったことに 1980 年代から取り組んできており、TEI (Text Encoding Initiative) ガイドラインという形でルールを共有してきましたが、日本では文字の扱いなどで難しい部分もあり、導入が遅れていました。しかし近年状況が劇的に変化しつつあります。

本書では、今後の人文学のための、より広い世界につながっていくようにするためのテキストデータの構築手法を、全 4 部構成でレクチャーします。第 1 部ではテキストデータの構築に関する概要とこれまでの日本での動向、第 2 部は、テキストデータ構築のための実践、第 3 部、4 部はテキストデータ構築やその利活用に関する事例を紹介し、特に実践編では、実際使用するソフトウェアについての紹介とチュートリアルを提供するなど、具体的に紹介し実践的に作られています。ぜひ本書をガイドに、自身のテキストデータを扱ってみてください。現時点で考え得る実現可能かつ有用性の高いテキストデータ構築の手法を提示しています。実践演習として「漱石書簡を用いた TEI によるテキスト構造化入門」も掲載。事例も豊富に紹介しています。古代から近代、日本や中国、中東、欧州までと、広範囲におよぶうえ、仏典の一大叢書である大正新脩大蔵経に対する TEI ガイドライン準拠のための構造化を組織的に推進している SAT 大蔵経データベース研究会の取り組みも紹介しました。

これからの人文学研究のために、必携の書です。

執筆は、石田友梨／大向一輝／小風綾乃／永崎研宣／宮川 創／渡邊要一郎／井上さやか／井野雅文／王 一凡／岡田一祐／小川潤／片倉峻平／金 甫榮／小風尚樹／佐久間祐惟／左藤仁宏／中村 寛／南 亮一／矢島正豊（礼迪）。

【…ただいろいろなデータをテキストに書き込んでいくだけでは、そのデータをうまく読み取ることも、より広い観点から活用することも十分にはできない。それが深くなればなるほど困難さも増していく。そこで、何らかのルールに基づいてデータを構築していくことが有力な選択肢となる。欧米の先進国では、これに 1980 年代から取り組んできており、TEI (Text Encoding Initiative) ガイドラインという形でルールを共有し、それに基づいてすでに相当の蓄積をなしている。欧米に比べ、日本では文字の扱い等に困難さを抱えていたこともあり、そのような習慣が根付くことに時間がかかり、その一方で、欧米で作られたルールとの距離感も否定できないものがあつた。そのようなギャップは、近年、Unicode の普及によって文字の扱いの問題が解決し、TEI ガイドライン策定に欧米以外の文化圏からも積極的に関わる道が確立されたことで、ようやく埋まりつつある。いまだ、全面的に解決したとは言えないものの、事態は劇的に変化しつつあり、われわれ

は今、そのただ中にある。

本書が目指すのは、そのような状況において、人文学のためのテキストデータが、人文学のために、より効果的に、その知を蓄積・共有できるようになり、それがより広い世界にもつながっていくようにするためのテキストデータの構築手法を日本語の世界に提供することである。】…はじめにより

【目次】

はじめに：人文学のためのテキストデータ構築●永崎研宣

本書の読み方

第 1 部 概説編

第 1 章 人文学のためのテキストデータの構築とは●永崎研宣

第 2 章 日本におけるテキストデータ構築の歴史●永崎研宣

COLUMN 1 TEI ガイドラインで自分の資料を作り始めるには●永崎研宣

第 2 部 実践編

第 1 章 Transkribus による手書きテキスト資料の自動翻刻●宮川 創

第 2 章 Transkribus 実践レポート：100 年分のフランス語議事録翻刻プロジェクト●小風綾乃

第 3 章 TEI ガイドラインとは●永崎研宣

第 4 章 実践演習：漱石書簡を用いた TEI によるテキスト構造化入門●原作：James Cummings・翻案：永崎研宣

第 5 章 利活用演習：TEI 準拠テキストの活用方法●永崎研宣

COLUMN 2 TEI 協会 東アジア／日本語分科会の活動●永崎研宣

第 3 部 事例編：テキストデータ構築の最新事情①

第 1 章 日本古辞書の TEI 符号化 ●岡田一祐

第 2 章 TEI を用いた『渋沢栄一伝記資料』テキストデータの再構築：「渋沢栄一ダイアリー」公開まで●金 甫榮・井上さやか

第 3 章 TEI と RDF を用いた財務史料の構造化：古代日本・近世スペイン・近代イギリスを事例に●小風尚樹

第 4 章 TEI データの可視化方法と事例紹介●中村 寛

第 5 章 Transkribus を用いた TEI の人名タグ付きテキストの機械学習による自動人名抽出：ジャアファル・ブン・イドリース・カッターニー『目録』を例に●石田友梨

COLUMN 3 TEI におけるセマンティック記述と●小川 潤

第 4 部 事例編：テキストデータ構築の最新事情②

第 1 章 大正新修大蔵経 TEI 化に関する概略●渡邊要一郎

第 2 章 日本仏教における研究成果のマークアップ：日本天台の文献研究に着目して●矢島正豊

第 3 章 禅籍の構造と TEI マークアップ：T2591 義雲和尚語録を例として●佐久間祐惟

第 4 章 大正新修大蔵経テキストの TEI 構造化における「私的パラグラフ」の設定●井野雅文

第 5 章 『續一切経音義』を通じた外字と割注の課題●王 一凡

第 6 章 知識グラフを表現する：『愚禿鈔』のマークアップを例として●左藤仁宏

第 7 章 大正新修大蔵経 TEI 化作業の中国古典籍への援用●片倉峻平

COLUMN 4 著作権法改正で Google Books のような検索サイトを作れるようになる？●南 亮一

タグ索引（用語編・XML 編）用語解説
TEI 活用の事例紹介（1）～（6）●永崎研宣



東北の古本屋

増補新版

折付桂子

ISBN978-4-909658-88-3 C0095
四六判・並製・312頁（フルカラー）
定価：本体1,800円（税別）

2022
刊行

東日本大震災後、福島出身の雑誌『日本古書通信』編集者が見続けてきた、「東北の古本屋」12年の記録。現在、古書店はどのような状況なのか、店は何軒あるのか、東北全体の実態を、現地を歩き自分の目で確かめ記録したルポ。地域の文化をつないでいく街の古本屋。つづく余震、原発の不安、風評被害の中で、本を整理し売り続けた古本屋から大震災はどのように見えたのか。古書業界の日常はどのように取り戻されたのか。また、新たに何が生まれたのか。人々はどのように変わっていったのか。フルカラー140点を超える写真とともに伝える。

紙の力、本の力、そして本と人をつなぐ本屋の力を信じて。震災を経験したものとして連帯する――。

話題をよんだ名著『東北の古本屋』（日本古書通信社、私家版、2019年）の増補新版。本好き、古本好きだけでなく、書店を開業しようとしている人、書店をこれからどうしていけばいいかを考えたい人にも読んでいただきたい本です。

第一部では「東北の古本屋案内」として、写真や地図とともに店舗を紹介。店舗をもたないネット書店も特色をふまえて記載。第二部では、2011年～2022年までの取材を収録。最後に東北の古本屋リスト、索引（古書関連、書店名（新刊書店及び古本屋リスト外の古書店）、古本市・市場関連、東日本大震災関連、公共交通機関）を付けた。

なお本書は『東北の古本屋』（日本古書通信社、私家版、2019年）の増補新版である。2022年現在の情報にあわせ全面的に書き直した。また第三部に「2021年東日本大震災から10年―復興の現状と東北の古書業界」「2022年 大震災から11年、今見えてきたこと―コロナ禍と地震の中で連帯する古書店」を新しく追加。古書店の写真はすべて大きく掲載し、地図も書き直した。また初版にはなかった索引をあらたに付けた。

【実際に会って言葉を交わして初めて通じ合うものがある。何度も訪ねて少しずつ心を開いてくださる方もいる。話を伺ううちに震災の話になり、共に涙ぐんだこともあった。震災で身近な方を亡くし、「本を楽しめる平和な日々のありがたみを痛感した」と語ったのは、普段はクールな若い本屋さんだった。東北は震災とは切り離せない。】……はじめにより

【目次】

第一部 はじめに

古書業界のスタイルと最近の流れ／古本屋は減っているか／ネット販売の拡大

第二部 東北の古本屋案内

●岩手県の古本屋

盛岡市／滝沢市／花巻市／矢巾町／奥州市／一関市

●宮城県の古本屋

仙台市（(1) 中心部徒歩圏／(2) バス利用／(3) 予約対応の店／(4) 仙台市内の無店舗営業）／石巻市／気仙沼市／栗原市／名取市／丸森町／蔵王町・大崎市

●山形県の古本屋

米沢市／山形市／川西町

●青森県の古本屋

弘前市／青森市／八戸市

●秋田県の古本屋

秋田市／由利本荘市／湯沢市／八郎潟町

●福島県の古本屋

郡山市／福島市／須賀川市／玉川村／会津若松市・会津美里町／相馬市／檜葉町／いわき市

《コラム》宮城古書組合、二〇年ぶりの大市盛会

第三部 東日本大震災と古本屋

●二〇一一年 東日本大震災と古書店――被災地福島県を訪ねて

古書ふみくら・岡田書店主のお話／東日本大震災被災地読者からのお便り

●二〇一二年 震災後一年レポート――福島・宮城の古書業界

平の商店街／平市街から小名浜へ／じゃんがら堂主のお話／海沿いの風景／吉田隆治氏のお話／相馬市・書林堂主のお話／ふみくら・岡田書店のお話／中通り・会津の古書店／宮城の古書業界／仙台の市場にて

●二〇一三年 被災地古書店の模索――地域に根差した復興へ

地域に根差した再建が見えた年

●二〇一四年 震災後の文化復興――福島の博物館と古書店

文化の復興の難しさと停滞感

●二〇一五年 ふたつの震災と古書業界

神戸と異なる震災ダメージ、帰れない街

●二〇一六年 東日本大震災から五年――古書店と読者にきく「復興、

震災ゆえの郷土へのまなざし

●二〇一七年 震災後の本の世界――被災地の古書店と新刊書店の「日常」

熊本復興へのスピード感、東北はそれぞれの「日常」を模索

●二〇二一年 東日本大震災から一〇年――復興の現状と東北の古書業界

津波被害からの「復興」――宮城県沿岸部／原発事故の影響――福島県浜通り風景と相馬市／原発のある街で――避難―再建―その先へ／福島県内の実情／新たな「店」づくり／仙台の市場にて／東北の即売会／市民イベントから業者連帯の即売会へ――リアルな本との出会いを求めて

●二〇二二年 大震災から一一年、今見えてきたこと――コロナ禍と地震の中で連帯する古書店

三月一六日の地震／一一年目の福島県浜通り／「店」でつながる／震災関連本の深化／活気溢れる宮城の古書業界／連帯の力
旧版あとがき 新版あとがき
東北の古本屋リスト

索引（古書関連、書店名（新刊書店及び古本屋リスト外の古書店）、古本市・市場関連、東日本大震災関連、公共交通機関）



川瀬巴水探索

無名なる風景の痕跡をさがす

川瀬巴水とその時代を知る会

〔代表・染谷 智幸〕

ISBN978-4-909658-90-6 C0070
A5 判・並製・160 頁（フルカラー）
定価：本体 1,900 円（税別）

2022
刊行

いまや、日本のみならず、世界でも大きく注目される川瀬巴水（かわせ ばすい）。

明治・大正・昭和の日本全国を旅して優れた風景画を手掛け、「旅情詩人」との高い評価を得ました。無類の旅好きの巴水は、「無名の、市井の、誰も注目しないような「ふとした景色」に無限の同情を寄せて（林望）」いました。

本書は、巴水の絵を持って、その描かれた場所（茨城や東京その他）を探索したものです。さまざまな発見が紹介されますが、言えることは、巴水の風景画は、その土地に立ってみなければ分からないことがたくさんあるということでした。巴水作品を地元から掘り起こすというのは、はじめての試みといってよいと思います。巴水が亡くなってから六十五年。まだその風景の痕跡は残っています。巴水の見た世界やその当時の息吹、そして巴水の思いが次々と立ち上がってきます。結果、より深く巴水の絵を知ることができるようになります。

一体どこでこの絵を描いたのか？ 茨城を中心に、東京、小樽を旅した、旅と探索の報告書です。推理小説的でもあり、読み物として面白い。またさまざまな発見のためのノウハウも満載。皆さんも、本書を片手に、ぜひ探索の旅に出掛けませんか。

推薦・林望（作家・書誌学者）「無名なる風景を逐一特定しつつあるのは、非常に大きな業績である」。

執筆は、林望（推薦文）、鈴木昇、染谷智幸、五十嵐俊之、柏原民代、加藤瑤子、小岩美帆、助川桂子、根本敬三、平山順子、深澤文子。初公開の関東大震災後の巴水東京スケッチもあります。

〔目次〕

〔巻頭特別寄稿〕すべてはここから始まる（林 望）

〔巻末推薦文〕（鈴木 昇）

1 探索エピソード

- 1 この石、ひょっとして（茨城「河原子乃夜雨」）（染谷智幸）
- 2 探し始めて一年半、ついに発見、兜作りの瓦屋根（茨城「金郷村」）（染谷智幸）
- 3 市松模様の着流し、女か男か、それとも……ふるさと東京のトワイライトゾーン（東京「大森海岸」）（染谷智幸）
- 4 巴水が「静寂な画趣」と、自画自賛した作品（北海道「小樽之波止場」）（助川桂子）

〔はじめに〕川瀬巴水の絵を持って小旅行に出よう（染谷智幸）

〔略歴〕川瀬巴水とは（染谷智幸）

〔コラム〕愚直の版画道―巴水の人生から見てくるもの（小岩美帆）

2 巴水作品全県調査——何が分かるのか

- 1 巴水作品の県別・年次別調査報告（柏原民代）

- 2 調査の結果から見てくるもの―巴水の目からすれば、茨城が全国魅力度ランキング第1位？（染谷智幸）

〔コラム〕地図で紹介する巴水と茨城（染谷智幸）

3 巴水の絵を訪ねる 1―平潟の風景

「平潟東町」―巴水版画に織り込まれた世界（加藤瑤子）

4 巴水の絵を訪ねる 2―五浦の風景

「五浦之月」―船を漕ぐ人、それは誰なのか（深澤文子）

〔コラム〕「金郷村」には何が描かれているか（助川桂子）

5 巴水の絵を訪ねる 3―水木の風景

「水木の曇り日」―巴水の描いた道を〈大祭礼〉は通ったか（平山順子）

〔コラム〕河原子はひなびた漁村だったか（平山順子）

〔コラム〕新聞に載りました―巴水の水彩画発見など（染谷智幸）

◎小特集「巴水と東京」

初公開！ 関東大震災後の巴水東京スケッチ（染谷智幸）

6 巴水の絵を訪ねる 4―水戸・磯浜の風景

- 1 「水戸大野」―巴水の描いた家を探して（根本敬三）

- 2 「磯浜」―地元だからこそ気づいた時のうつろい（根本敬三）

〔コラム〕「水戸葉王院」の歴史と巴水（柏原民代）

7 巴水の絵を訪ねる 5―浮島・潮来・牛堀の風景

- 1 浮島―巴水を魅了した景色がここにある（染谷智幸）

- 2 潮来・牛堀―巴水の見た水郷、一泊二日の写生旅行（柏原民代）

〔コラム〕「牛堀乃夕暮」―初摺と覆刻の違いから見てくるもの（染谷智幸）

8 巴水と茨城キリスト教学園―依頼された水彩画とポストカード

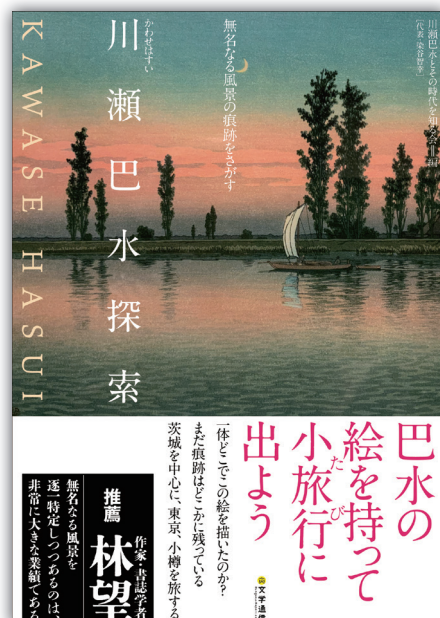
〔座談会〕「川瀬巴水、誰ですかそれは？」（鈴木昇・五十嵐俊之・染谷智幸）

巴水と茨城関連年表
（五十嵐俊之）

所収作品解題（染谷智幸）

〔あとがき〕巴水のご息女・川瀬文子さんを囲んだあの日（染谷智幸）

編者・執筆者紹介



REKIHAKU 特集・歴史の「匂い」

国立歴史民俗博物館・小倉慈司・高田貫太編

ISBN978-4-909658-91-3 C0021

A5 変判・並製・112 頁・フルカラー

定価：本体 1,091 円（税別）

発行 国立歴史民俗博物館

発売・編集協力 文学通信

2022
刊行

国立歴史民俗博物館発！歴史と文化への好奇心をひらく『REKIHAKU』！いまという時代を生きるのに必要な、最先端でもしろい歴史と文化に関する研究の成果をわかりやすく伝えます。第七号の特集は「歴史の「匂い」」。

史料的に「匂い」そのものが残ることはほぼありません。なので歴史を語る上でしばしば忘れられがちになります。ですが考えてみると、ににおいのない人間はいませんし、歴史もまた「ににおい」とは切り離せません。ここからどう歴史と社会を考えていくことができるでしょうか。

「匂い」によって呼び起こされる記憶は、文字や音声以上に鮮やかですし、「匂い」は記憶と深く結びついた存在です。また排除や一体感の醸成と「匂い」は深い関わりがあります。

日中韓で「ににおい」「かおり」はどう表されてきたか。縄文時代の「匂い」はどのように想像できるか。古代史の史料から五感の役割を見出せるか。ヘビースモーカーであった宣長とニオイ。近代日本の「臭気」と差別。火葬場の臭い。沖縄戦の陸軍病院壕内の「ニオイ」は再現できるのか。韓国文学の至宝、朴婉緒の小説のなかの「匂い」と「復讐」とは……。ここで取り上げるテーマは多岐にわたります。「匂い」が内包するさまざまなテーマから、歴史、社会を考えます。特集執筆は、方国花／山田康弘／三宅和朗／天野真志／吉村智博／山田慎也／上地克哉／斎藤真理子／小倉慈司。

特集以外の記事も、好評連載・鷹取ゆう「ようこそ！サクラ歴史民俗博物館」、石出奈々子のれきはく！探検ほか、盛りだくさんで歴史と文化への好奇心をひらいていきます。

歴史や文化に興味のある人はもちろん、そうではなかった人にもささる本。それが『REKIHAKU』です。年3回刊行！

【目次】

特集ページ

- 1【日中韓の文化のなかの「匂」・「臭」・「香」】
日中韓の「ににおい」・「かおり」文化（方国花）
- 2【それは自然の恵みに支えられた豊かな生活だったか】
縄文の「ににおい」（山田康弘）
- 3【歴史史料のなかに匂い・悪臭を感じてみる】
日本古代史の匂い——天皇即位儀と環境（三宅和朗）
- 4【愛煙家、本居宣長】
思想のニオイ（天野真志）
- 5【「臭気」という言説により再構成される差別】
近代都市の「臭気」と差別—スラムと部落をめぐる（吉村智博）
- 6【生活から隔離されてゆく火葬場と消えゆく煙突】
火葬の臭煙と煙突のゆくえ（山田慎也）
- 7【非日常的な戦争の特異な状況とニオイは重なって記憶されていた】
沖縄戦における陸軍病院壕内の「ニオイ」の再現（上地克哉）
- 8【作家の感性ゆえに記述されたににおい】
朴婉緒の小説に見る「匂い」と「復讐」（斎藤真理子）
- 9【松井章と網野善彦の臭気めぐる対話から】
歴史と「匂い」（小倉慈司）

特集をもっと詳しく知りたい人へおすすめの4冊

たかが歴史 されど歴史

日本の樹木が炭素 14 年代法を変える（坂本 稔）

博物館マンガ 第6回 ようこそ！サクラ歴史民俗博物館

博物館のおもてなし！（鷹取ゆう）

石出奈々子のれきはく！探検

第6回 幸せのイワシ臭（石出奈々子）

フィールド紀行 掘る、歩く、感じる 遺跡から未来へ

第3回（完）●古墳時代の「世界」とは？（世界へ）（松木武彦）

誌上博物館 歴博のイッピン

飛鳥を象徴する石造物 須弥山石（林部 均）

歴史研究フロンタライン

古代ゲノムが語る新しい弥生時代人ヤポネシアゲノム

（YAPONESIAN GENOME）（藤尾慎一郎）

EXHIBITION 歴博への招待状

国際企画展示 「加耶—古代東アジアを生きた、ある王国の歴史—」（高田貫太）

SPOTLIGHT 若手研究者たちの挑戦

近代日本における女性と美人画の関係性を探る（山本由梨）

歴史デジタルアーカイブ事始め

第5回 国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス（橋本雄太）

くらしの植物苑歳時記

特別企画「伝統の古典菊」・「冬の華・サザンカ」のご案内

博物館のある街

群馬県高崎市 群馬県立歴史博物館とその周辺（右島和夫）

くらしの由来記 七五三（小池淳一）

研究のひとしづく

変わりゆく葬儀 第3回●故人を送り出す（山田慎也）

Kaleidoscope of History LEON DE ROSNY (1837-1914) Un pionnier des études japonaises en France première partie (ギョーム・カレ)

歴博友の会 会員募集 英文目次



人はなぜ神話〈ミュトス〉を語るのか

拡大する世界と〈地〉の物語

清川祥恵・南郷晃子・植朗子編

ISBN978-4-909658-85-2 C0014

A5 判・並製・368 頁

定価：本体 2,800 円（税別）

2022
刊行

神話は、社会に生きる一人一人が記憶を承け継ぐために、異なる層／相で紡がれ続ける。生まれた時代、ジェンダー、ナショナリティ、「人種」、政治的立場が異なっても、人は自らの現在の生と、自らが生まれ育った〈地〉を、それぞれの「神話」を通して記憶のなかで結び合わせている――。

いままで語られてきた「神話」は何を伝えようのか。

あるいは、今、新たにどのような「神話」が求められるのか。

思考の枠組みの変化・生成を促すものとして「神話」言説が果たす役割を明らかにし、権威化と相対化を繰り返しながら変化をつづける、「神話」の実相を追究する。それはまさにいま現在の、現実の問題である。

本書は、さまざまな相貌を見せる神話〈ミュトス〉という言葉をとらえるために、以下の3部立てで構成される。それぞれの部で中心となるキーワードも挙げる。

▼第Ⅰ部 ヨーロッパ社会における「知」の体系化——言葉で紡ぐ〈地〉

【キーワード】キリスト教、ウェルギリウス、聖書、西洋古典文学、体育、J・C・F・グーツムーツ、植物学、ハインリッヒ・マルツェル、ギリシア哲学、プラトン、木村鷹太郎

▼第Ⅱ部 日本における「神話」の拡大——〈地〉の物語を編む

【キーワード】平田篤胤、神道、古事記、本田親徳、児島高德、神武天皇、橿原宮、総力戦体制、日本の神話学、植民地

▼第Ⅲ部 「新」世界とせめぎあう近代知——〈地〉の記憶をまとう

【キーワード】探検家、博物学、ゲオルク・フォルスター、アレクサンダー・フォン・フンボルト、エルンスト・ヘッケル、アトランティス、レムリア、ムー大陸、マヤ神話、ポボル・ヴフ、ブラック・パンサー、マーベル・コミック、黒人

本書は、古代のギリシア哲学やキリスト教世界、総力戦体制下の近代日本、マヤ文明やムー大陸、マーベルコミックやその映画などの21世紀のポップカルチャーにいたるまで、扱う時代や地域、専門の異なる十六本の多彩な論考から、この問いへの応答を試みる。執筆は、清川祥恵／南郷晃子／植朗子／野谷啓二／上月翔太／田口武史／里中俊介／山下久夫／斎藤英喜／藤巻和宏／鈴木正崇／平藤喜久子／横道誠／庄子大亮／José Luis Escalona Victoria／鋤柄史子。

【ミュトスは、必ずしも神の業や英雄の活躍を正典という形で語るものではなくとも、社会に生きる一人一人が記憶を承け、また継ぐために、異なる層／相で紡がれ続けている。二〇世紀の知識人がウェルギリウスを読むことと、二一世紀の子どもたちがマーベル映画を観ることに、直接的な関連性を見いだすのは牽強附会だと感じる声もあるかもしれない。しかし、生まれた時代、ジェンダー、ナショナリティ、「人種」、政治的立場が異なっても、人は自らの現在の生と、自らの揺籃としての〈地〉を、それぞれの「神話」を通して記憶のなかで結び合わせている。そして、ゆえに、画一的な唯一のミュトスは、人々自身が語り続けるかぎりには、決して存在しえない。人々は無数の語りを通して、語られなかった

ことの背後に、語る力を持たない者、語りを奪われた者の言葉をも聞くことができるのである。本書が「神話」に投じた光が、そのプロパガンダとしての側面を改めて照らし出すと同時に、抵抗の言説としての側面もまた反照していることを祈りたい。】…はじめにより

【目次】

はじめに

ー「人はなぜ神話〈ミュトス〉を語るのか」総論◆清川祥恵

I ヨーロッパ社会における「知」の体系化——言葉で紡ぐ〈地〉

第1章 真理は西へと向かう

ー古典古代とキリスト教世界の結節点に立つウェルギリウス

◆野谷啓二

第2章 統合される複数の伝統

ー聖書叙事詩の成立と展開◆上月翔太

第3章 近代市民の身体をめぐる神話

ーJ・C・F・グーツムーツの「体育」におけるゲルマンとギリシア

◆田口武史

第4章 近代植物学に生きつづける神話・伝承文学

ー二〇世紀ドイツの植物学者ハインリッヒ・マルツェルを中心に

◆植朗子

第5章 木村鷹太郎とプラトンの神話

ー「日本主義者プラトン」の発見と翻訳◆里中俊介

II 日本における「神話」の拡大——〈地〉の物語を編む

第6章 平田篤胤の「神話の眼」◆山下久夫

第7章 近代異端神道と『古事記』

ー本田親徳を起点として◆斎藤英喜

第8章 児島高德の蓑姿

ー「近代」津山における歴史／物語の葛藤◆南郷晃子

第9章 紀元二六〇〇年の神武天皇

ー橿原の〈地の記憶〉と聖地の変貌◆藤巻和宏

第10章 「近代神話」と総力戦体制◆鈴木正崇

第11章 近代日本の神話学と植民地へのまなざし◆平藤喜久子

III 「新」世界とせめぎあう近代知——〈地〉の記憶をまとう

第12章 それぞれの神話を生きること

ーゲオルク・フォルスター、アレクサンダー・フォン・フンボルト、エルンスト・ヘッケルの「統一と多様性」の思想◆横道誠

第13章 世界認識の拡大と「失われた大陸」

ーアトランティスからレムリア、ムー大陸へ◆庄子大亮

第14章 マヤ神話を仕立てる

ー一九世紀における新大陸文明の断片と認識論的転回

◆ホセ・ルイス・エスカロナ・ビクトリア [訳 清川祥恵／翻訳協力 鋤柄史子]

第15章 翻訳が生んだ『ポボル・ヴフ』——近代的解釈と日本におけるその変容◆鋤柄史子

第16章 夜を生きるパンサーの子ら——映画『ブラックパンサー』における「神話」と「黒人の生」

◆清川祥恵

あとがき 執筆者一覧



江戸幕府の誕生

関ヶ原合戦後の国家戦略

渡邊 大門編

ISBN978-4-909658-86-9 C0021

四六判・並製・228頁

定価：本体1,900円（税別）

2022
刊行

江戸幕府が約260年もの長きにわたって安泰だったのは、家康が幕府草創期の慶長・元和期に基礎となる諸政策を実行したからだった。果たしてそれはどのようなものだったか。最新の研究成果で、江戸幕府草創期という死角を明らかにする、画期的な書。

本書は、慶長5年（1600）の関ヶ原合戦後から豊臣家が滅亡した慶長20年（1615）の間における、江戸幕府初期（特に家康の時代）の諸政策や諸問題を検討する。

関ヶ原合戦後の領知配分はどうやって行われたのか、「二重公儀体制」とはいかなる体制なのか、家康の对外政策はどんなものであったか。朝廷、交通、城郭、京都支配、大御所政治などを取り上げ、最新の研究成果でわかりやすく伝える。

革新者のイメージが強い織田信長や知恵者としてされる豊臣秀吉に比べ、特に目立った印象がない家康、草創期の江戸幕府のイメージが本書により大きく変わります。

執筆は、渡邊大門、水野伍貴、小川 雄、花岡興史、神田裕理、鍋本由徳、曾根勇二、片山正彦、加藤 僚。

【各章でメインテーマとなっているのは、江戸幕府初期における政治史である。この時代の政治史については、すでに概説書などに書かれているが、世間の人々の関心は低い。むしろ、食文化、町人文化などの文化史が好まれる。しかし、江戸幕府が約二百六十年もの長きにわたって安泰だったのは、家康が幕府草創期の慶長・元和期に基礎となる諸政策を実行したからだった。その諸政策についても、近年の研究により改められた点が多い。わたしたちの家康や江戸幕府のイメージは、本書を通して大きく変わるはずである。】…はじめにより

【目次】

はじめに…渡邊大門

江戸幕府草創期という死角／幕府を築きながら、なぜか印象が薄い家康／本書のテーマ・各章の概要／家康と江戸幕府のイメージを更新する

【第1章】【なぜ合戦は避けられなかったのか】

関ヶ原の戦い—秀吉の「遺言体制」の否定と決戦への道のり…水野伍貴 秀吉の死と「遺言体制」／秀吉死後の権力闘争／「内府ちかひの条々」／正当性を奪われた家康の動き／諸大名の選択／決戦！関ヶ原／東軍の勝利／関ヶ原の戦いとは何だったのか

【第2章】【戦後処理はいかにおこなわれたか】

関ヶ原合戦後における諸将の領知配分—加増・減封・改易の実態…渡邊大門 関ヶ原合戦後の戦後処理／東軍の勝利を前提とした約束／助かった西軍の諸大名／厳罰を科された西軍首謀者／そのほかの西軍諸将の扱い／領知配分の実際／口頭での領知宛行／領知宛行の実態／領知配分の難しさ／徳川一門・譜代への対応／豊臣秀頼の処遇／その後の展開

【第3章】【二つの権力はいかに並立し、決別したか】

「二重公儀」の実像—徳川氏・羽柴氏の協調関係とその破綻…小川雄 二重公儀論の概要／徳川氏・羽柴氏の協調関係／秀頼期羽柴氏の所領分布／秀頼期羽柴氏と朝廷の関係／秀頼期羽柴氏の寺社再建／協調関係の推移／協調関係の担い手たち／協調関係見直しの動き／引き継がれなかった協調関係

【第4章】【はたして法令といえるのか】

幕府の城郭政策—「元和一国一城令」を再考する…花岡興史

「元和一国一城令」とは／用語の出自／「元和一国一城」の実際／法令としての検証／福田千鶴氏の批判／「一国一城令」ははたして「令」なのか／山本博文氏の批判／「一国一城令」の効力／なぜ、多くの大名たちが城を壊したのか

【第5章】【朝廷は家康に統制されていたのか】

徳川家康と天皇・公家衆との関係—武家と朝廷の駆け引きの行方…神田裕理 家康の台頭／帰趨を見届ける天皇と公家たち／もう一人の「武家」・「将来の関白」秀頼／秀頼・家康と朝廷／関ヶ原合戦前／関ヶ原合戦後の秀頼と朝廷／官位昇進の拮抗／官位叙任権の移り変わり／昵近衆の編成／昵近衆への期待／家康の対朝廷戦略

【第6章】【「鎖国」に至るまでの外交のあり方】

家康の对外政策は、外国人にどう受け止められたのか—原語表現に着目した権力認識…鍋本由徳 家康の对外政策は積極外交か／ポルトガル・スペインとの微妙な関係／研究に立ちはだかる大きな課題／原語表現と本国の権力認識への着目／イギリス商館が求める琉球との交易／幕府にとり、イギリス商館と琉球との交易にメリットはあるか／家康死後の急激な政策転換がもたらす影響／通詞と武家との喧嘩でコックスはどう動いたか／特権を拡大解釈するコックス／家康の与えた特許は軽いものだったのか？／家康がキリスト教を公認した事実はない／家康の禁教令の遠因となるノサ・セニョーラ・ダ・グラサ号／家康にとっての貿易と宗教との関係／家康死後の貿易制限令

【第7章】【駿府でなければならなかった理由とは】

大御所政治の展開—駿府の時代とは何であったのか？…曾根勇二

「大御所政治」の時代／新たな動きと江戸城・駿府城の普請／駿府城普請の意味／首都移転／朝鮮使節の饗応と駿府城本丸の炎上／諸大名の上洛禁止／甲府・八王子の位置付／駿府による東国支配／江戸の都市計画／大阪湾から瀬戸内の海上支配／琉球出兵とその後／姫路城の存在と西国支配／家康による拠点移動の意義

【第8章】【幕府の代行者たちの職務とその担い手】

京都所司代と国奉行—畿内近国に設置された江戸幕府の出先機関…片山正彦 京都所司代・国奉行とは／板倉勝重の職務／「大御所政治」と勝重／多岐にわたる京都所司代の役割／国奉行としての片桐且元／国奉行の寺社行政／寺社の復興と国奉行／小堀政一とは／国奉行としての政一／その後の板倉氏らの状況

【第9章】【発展の土台を支えたもの】

近世初期の交通政策—参勤交代・関所・宿駅制…加藤 僚

重要な交通政策／参勤交代の定義／参勤交代の別の側面／関所の機能など／関所の規定／関所の設置時期／平安から室町期の宿駅制／戦国・織豊期の宿駅制／江戸時代の宿駅制／近世宿駅の成立／宿駅・在町の意味

【第10章】【戦いの引き金から終局に至るまで】

大坂冬の陣・夏の陣の全貌—徳川・豊臣の最終戦争…渡邊大門

大坂の陣の発端／大坂冬の陣前夜／大坂冬の陣開戦／木津川口の戦いと鳴野・今福の戦い／真田信繁と真田丸の戦い／最終的な平和の内容／大坂夏の陣開戦／大和郡山、堺・岸和田方面における戦い／道明寺の戦い／その後の諸戦／天王寺・岡山の戦い／秀頼と淀殿の最期／おわりに…渡邊大門



REKIHAKU 特集・人工知能の現代史

国立歴史民俗博物館・橋本雄太・澤田和人編

ISBN978-4-909658-81-4 C0021

A5 変判・並製・112 頁・フルカラー

定価：本体 1,091 円（税別）

発行 国立歴史民俗博物館

発売・編集協力 文学通信

2022
刊行



国立歴史民俗博物館発！歴史と文化への好奇心をひらく『REKIHAKU』！いまという時代を生きるのに必要な、最先端でもしろい歴史と文化に関する研究の成果をわかりやすく伝えます。本書の特集は「人工知能の現代史」。

人間の知的ふるまいをコンピューターに再現させる方法を研究する分野を「人工知能（AI）」と呼ぶが、2012 年頃に「深層学習」と呼ばれる技術が登場し、AI は急速な発展を遂げ、いまでもその技術の進化はとどまることを知らない。例えば自動車の自動運転、言語の翻訳、音声・画像認識、ロボット制御、病理診断等々、その技術は社会のすみずみに浸透している。だがこの技術は、急に現れたものではなく、実は長い歴史を有するものであった。

本特集では、その歴史を「人工知能」前史から説きおこしていく。近年問題になっている、人種差別やジェンダー、貧富格差やフェイクニュースといった社会問題も含め論じ、歴史学の方法と知見をフルに活用しつつ「人工知能」の歴史に迫る。【人工知能も含む情報処理技術の歴史を研究する分野を「コンピューティング史」という。本特集が読者にとってコンピューティング史へのよい導入ともなれば幸いである。（橋本雄太）】

【目次】

1【AI 登場前後の研究の流れを概観する】「人工知能」前史——機械の脳とサイバネティクス（杉本 舞）／2【人工知能をめぐるジェンダーの問題】AI はだれの顔をしているのか？（小澤京子）／3【60 年以上にわたる AI 研究の歴史】AI 研究史概観——ダートマス会議から深層学習の登場まで（橋本雄太）／4【人工知能とロボットの倫理をめぐる歴史】AI が制御できなくなったら？（久木田水生）／5【社会に進出するコンピューターがもたらす議論】「人工知能」と社会——一九六〇年代を中心に（喜多千草）／6【日本人はどのように「考える機械」を受け入れたのか】日本における人工頭脳としてのコンピュータの受容（前山和喜）／7【次世代コンピューター開発への日本の挑戦】第五世代コンピュータープロジェクト——一九八〇年代の日本（林 晋）／8【個人用コンピューターがまだ実用品ではなかった時代の思い出】四〇年前のマイコンプログラムとカセットテープ（鈴木卓治）／9【国家の統治技法としてのサイバネティクスとその実践】サイバネティクスと社会主義——サイバーシミュレーション計画 1970-73（河西棟馬）／「人工知能の現代史」用語集（橋本雄太）／たかが歴史 されど歴史 元号（年号）字の決定権（小倉慈司）／博物館マンガ 第5回 大型展示物の掃除はとっても大変！（鷹取ゆう）／誌上博物館 歴博のイッピン 描かれた職人たち 東北院職人歌合（村木二郎）／歴史研究フロンティア アワビから読み解く古代史（清武雄二）／SPOTLIGHT 若手研究者たちの挑戦 樹木年輪がみちびく高精度年代研究の新境地（箱崎真隆）／博物館のある街 高知県立高知城歴史博物館のある街、高知城下町（藤田雅子）／くらしの由来記 アクセサリーの今昔（高田貴太）ほか多数

卒論修論一口指南

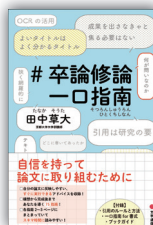
田中草大

2022
刊行

ISBN978-4-909658-78-4 C0000

四六判・並製・210 頁

定価：本体 1,600 円（税別）



論文に対する不安を緩和し、自信を持って論文に取り組むために。論文執筆の構想、調査、分析・執筆から完成後にいたるまで、すぐに実行できる & かならず実行しておきたい 75 のアドバイスを、わかりやすくあなたに伝えます。

これから論文に取り組もうとしている人、現在執筆のまっただなかにいる人、すべての学生におくる導きの書、誕生。

【本書の特徴】

▼自分の論文に反映しやすい、すぐに実行できるアドバイスを収録！▼構想から完成後にいたるまで、あなたを導く 75 指南！▼各指南 2～3 ページにまとまっていてスキマ時間に読みやすい！▼巻末付録として【無自覚の盗用（剽窃）を避けるために】「一口指南 for 書式」【ブックガイド】の 3 点を収録！

【すでにこの世の中には、論文書き方ハウツー本が驚くほどたくさんあります。論文の書き方についての体系的にまとまった知識は是非ともそうした本によって修得していただくとして、本書ではそれとは別に、より焦点を絞った、すぐに実行しやすいアドバイスをお届けしようという趣旨です。言わば、論文の書き方を学ぶ【副教材】として使っていただけたらと思っています。本書が、論文に対するあなたの不安を緩和し、自信を持って論文に取り組む助けとなれば何よりの幸いです。】……はじめにより

【目次】

はじめに 本書の構成と特色

その 1 構想編

指南 1 卒論・修論は教育課程の一環。「成果を出さなきゃ」と悩む必要はありません。指南 2 本腰を入れるのは就活が一段落してから…は、危うい。指南 3 小論文のことは忘れよう。指南 4 書き方を知らずに論文に取りかかるのは、ルールを知らずにスポーツの試合に出るようなもの。《退場》したくなければ書き方を学ぼう。指南 5 論文書き方ハウツー本で大事なものは、「どれを読むか」ではなく「複数読む」こと。指南 6 ハウツー本で主張が分かれている部分は、自分の先生の方針をチェックしてみよう。指南 7 実際の論文を読まなくては実際の論文は書けない。指南 8「好きなテーマを選びなさい」は「自分の愛好するものをテーマにきなさい」という意味ではない。指南 9 迷ったら、大学でのこれまでの学びと繋がりを持つテーマを選ぼう。指南 10「テーマを決める」とは「題材を決める」ことではなく「問いを決める」ことである。指南 11 答えられる問いでないと論文を終わらせられない。指南 12 大きな問題意識を背景に、小さなトピックを扱う。指南 13 巨人の肩の《くぼみ》を探してみよう。指南 14 メモする場所は一本化しよう。指南 15 メモする時は「どこに書いてあったか」を必ず明記しよう。指南 16 テーマの候補は複数用意しておこう。指南 17 走り出す前に相談しよう。指南 18 何をすればいいのかわからなくなったら「何が問いなのか」を自問しよう。ほかその 4 まで、全 75 指南。

その 2 調査編／その 3 分析・執筆編／その 4 完成編

付録その 1 無自覚の盗用（剽窃）を避けるために—論文・レポートにおける引用のルールと方法—付録その 2 一口指南 for 書式 付録その 3 ブックガイド

職業としての大学人

紅野謙介

2022
刊行

ISBN978-4-909658-77-7 C0037

四六判・並製・336頁

定価：本体1,800円（税別）



古い体質と格闘するなかから、どう新しい大学を生み出すのか。「大学改革」のかけ声ばかりが先行し、学問や教育が痩せ細るなか、大学への信頼はどのように取り戻せばいいか。その問いへつながる道筋に、近現代日本文学の研究者が、「大学人」として発信しつづけた言葉を配置する。

日本の大学行政の問題点をもっともチープなかたちで照らし出すにいたった、元理事や前理事長の逮捕・起訴といった、いわゆる日大事件。日本大学アメリカン・フットボール部の危険タックル事件。それらの渦中にいた著者が、できるかぎり事実をたがえることのないよう、メモと記憶にしたがって書き下ろした第1部「大学の現在、そして危機のなかの日常」。圧巻の93,000字。大学人はもとより、組織にいる人間には必読のテキストである。

第二部は、コロナ禍に遭遇した最初の半年間に出し続けた「学部長通信」を主に、第三部は、学生・保護者・卒業生に語った文章を収録。これらは教職員のみならず学生・保護者、卒業生にどのように事態を報告し、安心を与えられるか、考え抜かれた言葉である。「言葉なくして、安心も共感も説得もない。苦しいなかで言葉を届ける。それだけを考えて、メッセージを書き続けた」。大学を取り巻く社会で、学問への敬意が希薄になったいま、「新自由主義」によってもたらされた過剰な市場原理主義が大学を席

巻するいま、全教育関係者にとっての必読書。

【目次】

はじめに

1 大学の現在、そして危機のなかの日常

学校法人のガバナンスをめぐる臨床的研究—日本大学で何が起きていたのか／アメリカンフットボール部の危険タックル事件と大学の対応

2 教職員にかた—学部長通信

言葉をかけ続けることしかない—コロナ禍の大学から／文理学部の専任教職員のみならず／授業開始の延期と準備について—学部長通信1号／会議形態の変更と新組織—学部長通信2号／遠隔授業のインフラ整備—学部長通信3号／学生をいかにサポートするか—学部長通信4号／成績評価と授業形態—学部長通信5号／授業開始直後の混乱とその対策—学部長通信6号／空疎な改革論にだまされない—学部長通信7号／地元の映画館を支援する—学部長通信8号／私の遠隔授業の経験—学部長通信9号／入試改革をどうするか—学部長通信10号／コロナ下における文化の違い—学部長通信11号／働くとはどういうことか—学部長通信12号／現実と接続する学問の可能性—学部長通信13号／留学生の存在が学部に変化をもたらす—学部長通信14号／新型コロナウイルスと比喩のレトリック—学部長通信15号／遠隔授業サポートまとめ—学部長通信16号／生と死のあわいで—学部長通信17号／理不尽な現実のなかで自分を笑う—学部長通信18号

3 学生・保護者・卒業生にかた—一思考の風穴をあける

境界に立って／祝辞—学位記伝達式／新入生へのメッセージ—開講式祝辞／経済状態の激変と授業料等納付金について—学生ならびに保護者のみなさまへ／ようやく前学期授業が始まります！／文理学部キャンパスの段階的開放に向けて ほか。

「文壇」は作られた

川端康成と伊藤整からたどる日本近現代文学史

尾形大

2022
刊行

ISBN978-4-909658-74-6 C0095

四六判・並製・256頁

定価：本体2,000円（税別）



明治期以降、ジャーナリズムの発達・拡張にともなって、文学者たちのなかに文壇という〈場〉が共同的に創り上げられていく。1920年代に文学上の出発を果たした川端康成と伊藤整。彼らは文壇をどのように意識し、参入し、そしてそれぞれの文学を生み出していったのだろうか。彼らが見据え研究し、距離を測りながらかわりつづけた文壇という場を明らかにしつつ描く、日本近現代文学史。

【1950年にチャタレイ裁判の被告人となった伊藤は、全文壇人を代表する立場で法廷に立ち、粘り強く闘い抜いた。また同じ時期に『日本文壇史』の連載を開始して文芸批評家、文学研究者としても活躍するようになる。60年代には日本近代文学館設立運動の中心として、文壇の世話役、かじ取り役として尽力している。そして伊藤が深くかかわっていく文壇の中心には、いつも川端康成がありつづけた。伊藤と川端の文学上の関係性は1930年前後を起点としながら、その後40年近い歳月をかけてゆるやかにかわり合い、からみ合いながら紡がれていく。】……はじめにより

【目次】

はじめに

第1章 「文壇」は作られた

1 「文壇」という言葉の定義／2 『日本文壇史』のなかの文壇像／3 歴史の作られ方—文学史と文壇史／4 文壇へ参入するには／5 戦後文壇の中心：川端康成と伊藤整／6 ノーベル文学賞受賞と川端の戸惑い／7 川端と伊藤が向き合った文壇

第2章 文壇への参入と戦略—『感情装飾』と『雪明りの路』の作者たち

1 それぞれの文壇参入／2 川端の〈孤児意識〉／3 伊藤の〈捨児意識〉／4 詩壇から評価される伊藤／5 同人雑誌『椎の木』に集った文人たち／6 梶井基次郎との出会い、そして川端への執筆依頼

第3章 雑誌を創刊する伊藤—『文藝春秋』をモデルとした『文藝レビュー』

1 上京と瀬沼茂樹との出会い／2 モデルとしての『文藝春秋』／3 文学者とカネの問題／4 詩から小説への移行／5 海外文学の窓口／6 文壇参入に足掻く伊藤

第4章 フロイトの精神分析学とジョイス『ユリシイズ』の受容

1 フロイトとジョイスの輸入／2 創作への影響／3 川端による絶賛と伊藤の行き詰まり／4 「無意識」を描く／5 『ユリシイズ』共訳と方法としての「意識の流れ」／6 類似する物語構造／7 海外文学の受容

第5章 文学史の構築と「心理小説」の発見／第6章 拡張される「純文学」概念—「父母への手紙」と「生物祭」／第7章 プロレタリア文学に向き合う—小林多喜二の死から「幽鬼の街」へ／第8章 作家活動の裏事情—大学講師と代作問題／第9章 戦争と文壇—戦時下の「私」の行方／第10章 文壇の戦争責任と再建—『鳴海仙吉』と『雪国』／第11章 文壇の団結と再出発—チャタレイ事件と『舞姫』／第12章 日本近代文学館設立からノーベル文学賞受賞へ おわりに 関連年表

無数のひとりが紡ぐ歴史

日記文化から近現代日本を照射する

田中祐介編

ISBN978-4-909658-75-3 C0021
A5判・並製・カバー装・456頁
定価：本体 2,800 円（税別）

2022
刊行



人間の書くことの歴史と文化を考え、過去を生きた、無数の人々が紡いだ歴史の意味を問う。過去を生きた未知の人々の小さな歴史に向きあい、書かれた言葉の向こう側に想像力を働かせながら、より大きな歴史との異なりや繋がりを実践的に検証していく。本来ならば絶対に関わらない他者の日記を時代を超えて読むことには、一体どういう意味があるのか。書かれた内容を鵜呑みにできず、一筋縄ではいかない日記という史料にいかに向き合うべきなのか。モノ・行為・史料の視座から掘り下げ、人はなぜ日記を綴るのかという根源的な問いへの向きあい方をも考えていく、最先端の「日記文化」研究。執筆は、田中祐介／柿本真代／河内聡子／鬼頭篤史／志良堂正史／竹内瑞穂／堤ひろゆき／徳山倫子／大木志門／西田昌之／大岡響子／大川史織／吉見義明／山田鮎美／島利栄子。【日記は読み手に都合の良い論証の材料ではなく、未知の他者との出会いであり、新鮮な問いが様々に生まれる磁場である。書き手の人格と人生に敬意を払いながら、紙面に留められた言葉のひとつひとつに向きあい、予見を排して慎重に読み解く。そうすることで過去の言葉は再び生彩を放ち、現在の読者の言葉と思考を揺るがし、再考を促すであろう。すなわち日記の読み解きを通じて出会うのは、社会的属性や特定の歴史経験に還元され得ない個別的な他者、換言すれば無数のひとりにほかならない。】

……「総論 「日記文化」を掘り下げ、歴史を照射する」より

【目次】 総論 「日記文化」を掘り下げ、歴史を照射する（田中祐介）／Ⅰ モノとしての日記・家計簿・手帳の文化史／1章 夏休みの日記の成立と展開―「夏季休暇日誌」から「なつやすみの友」へ（柿本真代）／2章 家計簿と女性の近代―モノとしての成立と展開に見る（河内聡子）／3章 昭和戦後期のサラリーマンの手帳文化―一九六〇年代末から一九八〇年代の手帳をめぐる言説を中心に（鬼頭篤史）／4章 手帳類プロジェクトの設計と実践―私的なプレイヤーのためのプラットフォームへ向けて（志良堂正史）／Ⅱ 読者を意識した自己の真実性／5章 自己を書き綴り、自己を「調律」する―中村古峽史料群の「日記」「相談書簡」「療養日誌」（竹内瑞穂）／6章 戦場に行かない兵士としての経験を綴る―大正期師範学校卒業教員の「六週間現役兵日誌」における伝えるべき軍隊像の模索（堤ひろゆき）／7章 飢える戦場の自己を綴りぬく―佐藤富五郎日記における書くことの意味（田中祐介）／8章 昭和初期農村の「模範処女」たちの自己語り―県農会立女学校の生徒・卒業生作文に見る規範意識と「少女文化」（徳山倫子）／Ⅲ 自己を語り直す―日記・私小説・自伝・回想録／9章 水上勉文学における自己語りの諸相―「私小説」のプロトタイプ的理解の一例として（大木志門）／10章 物語化する自己記述―漆芸家生駒弘のタイ滞在日記と自伝の比較から（西田昌之）／11章 芦田恵之助の回想録と日記の比較から見る台湾表象と「国語」教育観（大岡響子）／Ⅳ 無数のひとりに出会う／12章 映画『タリナイ』上映から一年（講演記録）（大川史織）／13章―1 吉見義明氏インタビュー（聞き手▼田中祐介・大川史織）／13章―2 戦争体験から高度成長期体験へ―「青木祥子日記」の検討から（吉見義明）／14章 特別展示 花の日記に私注をつける（山田鮎美）／15章 個人の記録を未来へ継承する（対談記録）（島利栄子・志良堂正史・田中祐介（司会））

思い出のとしまえん

練馬区立石神井公園ふるさと文化館編
小宮佐知子・内田 弘・小林 克著

ISBN978-4-909658-76-0 C0076
B5判・並製・カバー装・196頁（フルカラー）
定価：本体 1,900 円（税別）

2022
刊行

としまえん、94年の卒業アルバム！

大正 15（1926）年に、現在の練馬区向山で開園した遊園地「としまえん」は、令和 2（2020）年 8 月 31 日、多くの人々に惜しまれつつ 94 年の歴史に幕を閉じました。

としまえんは、世界初の流れるプールや、日本初の本格的ダークライド「アフリカ館」の開業、機械遺産となった世界最古級の回転木馬「カルーセルエルドラド」の移設、斬新な広告展開など、常に時代の最先端をいき、遊園地の楽しさを多くの人々に発信してきました。

本書はとしまえんのあゆみを、練馬区立石神井公園ふるさと文化館で開催された企画展「思い出のとしまえん」をベースに、ポスターや写真など、さまざまな資料からたどります。

掲載図版 400 点以上、一世を風靡したポスター 40 点以上掲載。としまえ最後の事業運営部長内田弘氏の講演会「乗り物から振り返る『としまえん』」も収録。この講演は遊園地などの娯楽産業に携わる人には必読の文章です。小宮佐知子氏による「遊園地の歴史にみる豊島園の開園」では、遊園地の成立事情やその実態をつぶさに描き出します。としまえんを愛するすべての人に。遊園地とは何かということを考えたいすべての人に。

【目次】序章 としまえんのはじまり／1 城の跡地に生まれた遊

園地／第 1 章 戦前のとしまえん／①開園初期のとしまえん／1 全面開園時の様子／2 絵葉書からみる開園初期の園内／3 週末の小旅行先へ―大人も子どもも／4 駅名にもなり高まる存在感／②昭和 10 年頃からのとしまえん／1 揺れる遊園地の立てなおし／2 大きな宣伝も遊園地で／3 ついに経営は武蔵野鉄道株式会社へ／第 2 章 戦後のとしまえん／①遊園地の最先端をいく／1 華やかさを取り戻して／2 戦後の花形ランドマーク／3 映画づくりから始まる昆虫館／4 永遠の花形マシン―サイクロン／5 火花散るぶつかり合い―オート・スクーター／6 スリルを求める時代へ／7 突進するゾウ、宙を舞うヒョウ―アドベンチャーゾーンアフリカ／8 旅する夢のメリーゴーランド―カルーセルエルドラド／9 飛び出す日本のおぼけ―ミステリーゾーン&お化け屋敷／10 跳んだりぶらさがったり―フィールドアスレチック／11 愛すべき絶叫マシンたち―コークスクリュー・シャトルループ・フライングパイレーツ・トップスピン／12 夏を独占する遊園地の誕生まで―としまえんプール／13 としまえんのハイドロポリスは〜♪／②新たな「としまえん」らしさへ／1 練馬区とみんなの遊園地／2 すべての季節を園内で／3 子どもでもスリルを楽しみたい／第 3 章 としまえんの広告は面白い／1984～2020（No.1～47）／広告製作秘話 by 内田弘／終章 閉園と思いついた／1 ご来園ありがとうございました／2 としまえんの思い出たちは現在も／もっと知りたい「としまえん」／1 内田弘講演会 乗り物から振り返る「としまえん」／2 遊園地の歴史にみる豊島園の開園（小宮佐知子）／索引



日本学の教科書

Handbook for Japanese Studies

伴野 文亮・茂木 謙之介編

ISBN978-4-909658-73-9 C0036

四六判・並製・208 頁

定価：本体 1,800 円（税別）

2022
刊行

これから「日本」を捉え直す視座をどう獲得していくのか。「日本」を考えるうえで、既存の取り組みにとどまらない、新たな展開を考えるために。日本学の「方法」と「実践」を提示した、初学者をはじめとした日本学に関心を持つすべての人への「導き」の書。グローバル・ヒストリーや文学研究、表象文化論や宗教研究といった人文科学から、「キャラクタ」研究や東北経済学、家族社会学といった社会科学まで、多種多様な学問領域の先鋭的な研究を結集し、さらに〈東北〉という〈場〉を問題意識として共有した新しい日本学の取り組みを示す。

執筆は、茂木謙之介、伴野文亮、クリストファー・クレイグ、佐藤弘夫、高橋章則、大野晃嗣、仁平政人、荒井美咲、君島彩子、オリオン・クラウタウ、雲然祥子、田中重人

【現代日本学は、安易な日本賛美の学問ではなく、「日本」というフィールドの実態を、複眼的視座から構造的に把握する学問でなくてはならない。現代日本学が健全な学問として存立し続けるためにも、現代日本学の実践に従事するすべての人は、国際と学際という2つの「際」に徹底的にこだわり、かつホンモノの資料をもとに研究を立ち上げるという緊張感を、絶えず持ち続けるべきである。現代日本学の挑戦は、はじまったばかりだ。】……おわりに（伴野文亮）より

【目次】

はじめに（茂木謙之介）／第Ⅰ部 日本学の現状／第1章 海外における日本学の来歴（クリストファー・クレイグ）／column 「国際日本学」のゆくえ（佐藤弘夫）／第2章 日本学の「場」をつくる—東北大学を事例に—（高橋章則）／column 日本学国際共同大学院プログラムと「日本学」（大野晃嗣）／第Ⅱ部 現代日本学の実践／第3章 現代日本学の実践1〔グローバル・ヒストリー〕日本学のための歴史学的手法とその実践（クリストファー・クレイグ）／第4章 現代日本学の実践2〔地域文化史〕「地域文化史」の視点から考える現代日本学—俳諧の「旧派」の文化的実践を手がかりに—（伴野文亮）／column 現代日本文学へのアプローチ—若竹千佐子『おらおらでひとりいぐも』を例に—（仁平政人）／第5章 現代日本学の実践3〔表象文化論〕表象文化研究から日本学を考える—芥見下々『呪術廻戦』における〈東北〉イメージを導きに—（茂木謙之介）／column 現代日本の「キャラ（クター）」文化（荒井美咲）／第6章 現代日本学の実践4〔宗教学〕仏像から考える日本の「宗教」と「美術」（君島彩子）／column 宗教研究からみた日本学（オリオン・クラウタウ）／第7章 現代日本学の実践5〔経済学〕「東北」の産業・経済から見る日本（雲然祥子）／第8章 現代日本学の実践6〔社会学〕家族の変化と生活保障システム（田中重人）／おわりに（伴野文亮） 執筆者プロフィール



未墾地に入植した満蒙開拓団長の記録

堀忠雄『五福堂開拓団十年記』を読む

黒澤 勉・小松靖彦編

ISBN978-4-909658-71-5 C0036

四六判・並製・252 頁

定価：本体 2,400 円（税別）

2022
刊行

「今さら満洲開拓の是非論など何の値もしないが、その開拓者の生死とそれに関する事実を明らかにすることは、日本人として日本の歴史を動かしてしまった者として、当然明らかにしなければならないと言うことが私の責任であるのだ」……第三部・「開拓忌三十三年」（堀忠雄）より

ほとんどの開拓団が悲惨な逃避行を体験することになったが、五福堂開拓団は現地住民の襲撃にあったものの、致命的な被害を受けることはなかった。それはなぜだったのか——。

満蒙開拓団の悲惨な歴史の中にあって、異彩を放つ移民団・五福堂開拓団の団長・堀忠雄の未刊の著作『五福堂開拓団十年記』をはじめで紹介する書。

五福堂開拓団は、ほとんどが未墾の土地に入植し、一部の既墾地については、現地住民がそのまま耕作を続けることを認め、現地住民たちとの間に良好な関係を築いた。それは堀の「日本人も中国人も農民は農民同士」という方針による。敗戦後、堀団長は、団員全員が生き抜くことを指針とした。ソ連軍による女性の供出要求もはっきりと拒否した。

常に理性的行動をとった堀の内側にあった感情のゆらぎの記録として、また、敗戦以前の五福堂開拓団の暮らしの記録として極めて貴重な書。堀は本書執筆の三年後の一九七二年、すべての公務

を辞し（堀は敗戦後岩手県で開拓の指導に当たった）、かつての団員の訪問を開始した。『五福堂開拓団十年記』は、満蒙開拓団の歴史の真実を明らかにするための旅に先立ち、堀自身の心の整理を試みたものであった。

悲劇的な満蒙開拓団の歴史の中に、なおも存在していた人間の「可能性」を伝える新資料。「唄う村民にしよう。歌う村を創ろう」と、宮澤賢治に通ずる理想を掲げて開拓に取り組んだ堀の考え方と行動の背後から、満蒙開拓団の歴史にもう一步近づくことができる。

【目次】

はしがき—満蒙開拓団の悲劇の中の人間の「可能性」（小松靖彦）凡例

第一部 堀忠雄の生涯

拓魂—堀忠雄の生涯（黒澤 勉）

第二部 『五福堂開拓団十年記』を読む

拓務省第六次 五福堂開拓団十年記（巻一）（元団長 堀 忠雄）

第三部 五福堂開拓団のその後

私は終戦にこう対処した／満洲開拓団受難を考える／開拓忌三十三年（堀 忠雄）

解説 堀忠雄『五福堂開拓団十年記』について—未墾地に入植した満蒙開拓団長の心の記録—（小松靖彦）

- 一 満蒙開拓団について
- 二 堀忠雄と『五福堂開拓団十年記』
- 三 堀忠雄の満洲農業移民についての考え
- 四 『五福堂開拓団十年記』の注目される記事



論考 日本中世史

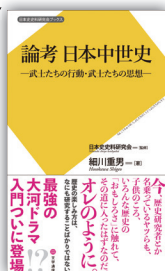
武士たちの行動・武士たちの思想

細川重男

日本史料研究会ブックス 007
ISBN978-4-909658-70-8 C0221
新書判・並製・278 頁
定価：本体 1,800 円（税別）

2刷

2022
刊行



今、歴史研究者とか名乗っているヤツらも、子供のころ、いろんな歴史の「おもしろさ」に触れて、その道に入ったはずなのだ。オレのように——。そして歴史の楽しみ方は、なにも研究することばかりではない。小説・エッセーを書く、マンガやイラストを描く、ゲームをやる、あるいは作る。そして我が家で子供たちに昔の人の物語を語り聞かせる。それぞれの人が自分のやり方で歴史を楽しんでほしい——。

中世史研究者、歴史愛好家、すべての歴史好きに贈る、前代未聞で形容しがたい、しかし抜群に面白い歴史読本。

本書で歴史がもっと好きになることは請け合いです！

【「歴史は少し高尚な娯楽」と言うたのは亀田俊和氏であるが、これを聞いた時、我が意を得たと思った。実際、『吾妻鏡』や古文書を含め、「ナンじゃ、こりゃ？『少年ジャンプ』より、おもしろえー！」と笑ってしまうモノは、ケッコーある。そして、ゲラ！ゲラ！笑うのだけが、「おもしろい」のではないのである。涙がこぼれるほどに感動するコトも「おもしろい」なのである。今、歴史研究者とか名乗っているヤツらも、子供のころ、いろんな歴史の「おもしろさ」に触れて、その道に入ったはずなのだ。オレのように。それなのに、大学教員・大学院生の中には、「歴史研究

をしている」だけで自分を「偉い」と思い込み、一般の歴史愛好者を見下しているヤツらがいる。露骨に態度に示すヤツもいれば、外面はフレンドリーな態度をとりながら腹の中真っ黒というヤツもいる。いずれにしろ、こーゆーヤツらの研究に限って、たいしたことない。バツ！カ！じゃなからうか！……あとがきより】

【目次】はじめに一起請 本書の事／第一話 黒幕（フィクサー）の懐古／第二話 道元と北条時頼／第三話 『延慶三年記』のこと／第四話 Who is 大井入道？／第五話 降臨の時／第六話 断指／第七話 莫若（しくはなし）／第八話 家督／第九話 文士／第十話 勇士／第十一話 さだたか／第十二話 ナンのヒネリも無い書名／第十三話 ある軍記物の幻影／第十四話 「茶筌1コくださいな」／第十五話 言われてるほど、ムチャでもない／第十六話 「海南行」／第十七話 太刀、あれこれ／第十八話 発表講座／第十九話 『尊卑分脈』の使い方／第二十話 替え歌「ジョーキュー（檄！鎌倉幕府軍）」／第二十一話 替え歌「流刑地の春～佐殿のテーマ」／第二十二話 替え歌「オキノシマ」／第二十三話 下総の子犬の話／第二十四話 佐々木さんはお怒りです。／第二十五話 替え歌「しょーぐんっていいな」／第二十六話 ムカつく北条氏をブツブツから、みんな、集まれ！／第二十七話 その男たち、凶暴につき／第二十八話 替え歌「南帝の詩」／第二十九話 論旨をください／第三十話 狼たちの夢／第三十一話 武士の名前はなぜ、うざい？／第三十二話 寿限無とトーテムポール／第三十三話 歴史人物キャッチ・コピー／第三十四話 省略し過ぎ！／第三十五話 童名と仮名／第三十六話 西念ダッシュ／第三十七話 替え歌「黒雪賦一梶原景時のテーマ」／第三十八話 替え歌「東国武士団の歌」／第三十九話 御内人と得宗被官／第四十話 「暴れっぱなし」の七十九年／第四十一話 替え歌「ぶっちぎり Rock'n Roll ～長沼沼政のテーマ～」／ほか

地域歴史文化継承ガイドブック

付・全国資料ネット総覧

人間文化研究機構「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」監修

天野真志・後藤 真編

ISBN978-4-909658-72-2 C0021
A5 判・並製・248 頁・一部カラー
定価：本体 1,600 円（税別）

2刷

2022
刊行

地域の歴史や文化の、何をどう守り伝えていけばいいのか。最新の研究と実践からその方法を紹介する入門書。自治体、博物館、文書館、図書館、また地域資料の災害対策、保存・継承に興味のある方必携！本書により、多くの方々が地域の歴史文化に関心を深め、新たな地域の担い手として活躍できるようになるよう、期待を込めて刊行いたします。

第Ⅰ部では、歴史文化資料の基礎知識として、古文書（記録資料）、民具、美術資料、公文書、震災資料など、それぞれの具体例、特徴を上げ、基礎知識がわかるようにしました。また保存・活用方法として、デジタルデータ・紙製品・木製品を取りあげます。また資料保存の担い手と技術をつなぐ、ワークショップの方法なども取りあげました。

第Ⅱ部では、地域を主体として資料保存活動を推進する「資料ネット」について紹介。1995 年阪神・淡路大震災を契機に誕生した「資料ネット」は、その後各地で自然災害が多発するなか、全国に拡大しました。現在活動している団体の概要を、それぞれの団体自身により紹介し、読者が地域を主体とした持続的な取り組みを実践するネットワークとつながることができるようにしました。

執筆は、天野真志、後藤 真、平川 南、加藤明恵、川邊咲子、

安田容子、松岡弘之、吉川圭太、山口悟史、岡田 靖、永村 真、川内淳史、佐藤 琴、阿部浩一、添田 仁、作間亮哉、高山慶子、金井忠夫、長谷川明則、鈴木 凜、宇野淳子、西村慎太郎、原 直史、白水 智、山本英二、藤谷 彰、堀田慎一郎、小野塚航一、吉原大志、藤 隆宏、橋本唯子、小林准士、石田雅春、下向井祐子、伊藤 実、町田 哲、胡 光、楠瀬慶太、今村直樹、山内利秋、佐藤宏之。

【目次】

ご挨拶●平川 南／はじめに一地域で資料を保存・継承するには●天野真志／第Ⅰ部 歴史文化資料の基礎知識／①地域社会と歴史文化資料／地域社会と歴史文化●平川 南／地域と資料保存●天野真志／②具体例と特徴／古文書（記録資料）●加藤明恵／民具●川邊咲子／美術資料●安田容子／公文書●松岡弘之／震災資料●吉川圭太／③保存・活用方法／歴史資料保全のためのデジタルデータ●後藤 真／紙製地域資料を遺す技術——手当てとその考え方●山口悟史／地域に埋没する木製文化遺産●岡田 靖／資料保存の担い手と技術をつなぐ一被災資料救済ワークショップの展開●天野真志／第Ⅱ部 全国資料ネット総覧／「資料ネット」活動の広がり●天野真志／全国史料ネット研究交流集会●川内淳史／東北／関東／中部／近畿／中国／四国／九州／おわりに●永村 真／執筆者一覧／



Butoh 入門

肉体を翻訳する

大野ロベルト・相原朋枝編

ISBN978-4-909658-68-5 C0073

A5 判・並製・352 頁

定価：本体 2,200 円（税別）

2021
刊行

舞踏という迷宮を、旅するためのガイドブック。「舞踏って何だろう」と漠然と思っているひとにも、専門的に舞踏を研究しているひとにも最適な本。踊りとは、ダンスとは、そして、世界中で通じる B u t o h とは何か。「言葉では表現できない」という言葉であらわされる B u t o h について、言葉で立体的に捉えたと何が見えてくるのか。果たして肉体を駆使用する言語としての舞踏は、どのような言葉から成り立っているのか。その肉体を翻訳します。

舞踏をこれまであまり意識しなかったひとたち、舞踏よりもむしろ B u t o h という国際的なものとしてそれに会ったひとたちに向けた、ありそうでなかった入門書。コラムではそれぞれの視点から舞踏の歴史や国際交流について紹介、代表的な舞踏家を列挙した「舞踏『図』譜」や、舞踏に関する参考文献を集めた「舞踏『書』譜」、それに年表「舞踏『年』譜」も付す。この一冊に舞踏について考える材料が詰まっています。

執筆は大野ロベルト、相原朋枝、酒向治子、ブルース・ベアード、ローズマリー・キャンデラリオ、横尾咲子、関典子、塚田美紀。【私が本書の編者となっているのは、奇をてらったのことはないのである。「媒がなければ舞踏を身近に感じることができない」地点から出発したという意味において、私は執筆者の誰よりも読

者一般に近い立場にある。現代における舞踏の受容のあり方を表現する一人として、「私の場合」を出発点に置いた結果、このような書物が出来上がった。むろん、その出発点から一步を踏み出し、舞踏というものを立体的に捉えるためには、共編者と各執筆者の専門的な知見と経験が不可欠であった。

私自身、本書の各章に手を引かれて、ようやく舞踏の森を抜けたばかりである。ぜひ読者にも、それぞれの経路で、この迷宮に踏み込んでいただければ幸いである。】……あとがきより

【目次】

舞踏「図」譜／序にかえて―舞踏家がバサバサと骨ばった腕を上げてくる／第1章 綱渡りする死体―日本語の身体性（大野ロベルト）／第2章 肉体と観念の三重奏―土方巽・澁澤龍彦・三島由紀夫（大野ロベルト）／第3章 舞踏の技法、舞踏の身体―大駱駝艦と野口操（相原朋枝）／[Column] カニングハムと土方巽―アンチモダニズムの心身（酒向治子）／第4章 西洋的欲望の迷宮に踊る―日本国外での土方巽（ブルース・ベアード）（大野ロベルト訳）／第5章 舞踏百景―グローバルでローカルなダンス（ローズマリー・キャンデラリオ）（大野ロベルト訳）／[Column] メキシコ人の血に流れる舞踏熱（横尾咲子）／第6章 舞踏とコンテンツ―和栗由紀夫との協働を超えて（関典子）／第7章 言葉で踊る―一九九五年の大野一雄（相原朋枝）／[Column] 美術館と身体表現―世田谷美術館の歩みを中心に（塚田美紀）／舞踏「書」譜 舞踏「年」譜



REKIHAKU 特集・ファッション×博物館

国立歴史民俗博物館・澤田和人・吉村郊子編

ISBN978-4-909658-69-2 C0021

A5 変判・並製・112 頁・フルカラー

定価：本体 1,091 円（税別）

発行 国立歴史民俗博物館

発売・編集協力 文学通信

2022
刊行

国立歴史民俗博物館発！ 歴史と文化への好奇心をひらく『REKIHAKU』！ いまという時代を生きるのに必要な、最先端でおもしろい歴史と文化に関する研究の成果をわかりやすく伝えます。本書の特集は「ファッション×博物館」。

博物館は知識を得るとともに、感性を磨く場所でもある——。「ファッション」を鍵として博物館を気軽に楽しむ方法を提案いたします。

第1部は野村正治郎のコレクションをはじめとする、歴博所蔵の着物を中心とした染織資料を紹介。実は歴博は着物の収集を継続的に行っている有数の博物館である。「デザインの醍醐味」「匠の技」「時代の象徴」「珍品稀品」「由緒ある着物」「絵師・画家と着物」「着物をめぐるドラマ」とテーマを分け紹介していく。第2部では所蔵品をファッションと絡めて紹介。独自の視点で資料を観察する、あるいは、見たい資料を選択して自分だけのストーリーをつくって観覧することをうながします。博物館を楽しむ入口としても、本特集「ファッション×博物館」は作られています。

好評連載・鷹取ゆう「ようこそ！ サクラ歴史民俗博物館」では「番外編①着物展示の裏側」など、ファッションに関するテーマを集

めました。盛りだくさんで歴史と文化への好奇心をひらいていきます。

歴史や文化に興味のある人はもちろん、そうではなかった人にもささる本。それが『REKIHAKU』です。年3回刊行！

【目次】

第1部 国立歴史民俗博物館と着物／デザインの醍醐味／1 雛形本と一致／2 色違いの着物／3 カラスが模様／4 左右別々／5 まるでベルサイユ／6 際立つ個性／匠の技／7 優れたパッチワーク／8 まさに職人技／9 木綿の着物の極致／時代の象徴／10 近代の製品の手本／11 東京セレブのおしゃれ／珍品稀品／12 様式化前の古例／13 型染の珍品／14 西洋人好み／15 アットウシの珍品／由緒ある着物／16 後水尾天皇第三皇女昭子内親王御着用／17 西本願寺伝来／18 宮家の着物／絵師・画家と着物／19 酒井抱一が描く／20 呉春の絵／21 北野恒富の絵のモデル／22 山川秀峰の絵のモデル／着物をめぐるドラマ／23 太鼓方の菩提のために／24 百姓一揆大山騷動の首謀者が寄進／25 着物の結婚式／ファッションをもっとたのしみたい人へ おすすめスポット＆ブック／ようこそ！ サクラ歴史民俗博物館番外編①着物展示の裏側 鷹取ゆう／第2部 博物館でファッションを楽しむ ほか



その他の刊行図書 2022.09 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト [<https://bungaku-report.com/>]、もしくは検索してご覧下さい

	刊行年	ISBN	本体価格
東アジア文化講座・全4冊 [完結]			
はじめに交流ありき—東アジアの文化と異文化交流●染谷智幸編	2021年2月	978-4-909658-44-9	2800円
漢字を使った文化はどう広がっていたのか—東アジアの漢字漢文文化圏●金文京編	2021年2月	978-4-909658-45-6	2800円
東アジアに共有される文学世界—東アジアの文学圏●小峯和明編	2021年2月	978-4-909658-46-3	2800円
東アジアの自然観—東アジアの環境と風俗●ハルオ・シラネ編	2021年2月	978-4-909658-47-0	2800円
デジタル・ヒューマニティーズ関連書			
歴史情報学の教科書—歴史のデータが世界をひらく●後藤 真・橋本雄太編 2刷	2019年4月	978-4-909658-12-8	1900円
ネット文化資源の読み方・作り方—図書館・自治体・研究者必携ガイド●岡田一祐 2刷	2019年7月	978-4-909658-14-2	2400円
デジタル学術空間の作り方—仏教学から提起する次世代人文学のモデル●下田正弘・永崎研宣編	2019年12月	978-4-909658-19-7	2800円
欧米圏デジタル・ヒューマニティーズの基礎知識●一般財団法人人文情報学研究所監修	2021年7月	978-4-909658-58-6	2800円
国語教育関連書			
なぜ古典を勉強するのか—近代を古典で読み解くために●前田雅之 3刷	2018年6月	978-4-909658-00-5	3200円
国語の授業の作り方—はじめての授業マニュアル●古田尚行 3刷	2018年7月	978-4-909658-01-2	2700円
古典は本当に必要なのか、否定論者と議論して本気で考えてみた。—●勝又基編 2刷	2019年9月	978-4-909658-16-6	1800円
古典教育と古典文学研究を架橋する—国語科教員の古文教材化の手順●井浪真吾	2020年3月	978-4-909658-26-5	2700円
高校に古典は本当に必要なのか—高校生が高校生のために考えたシンポジウムのまとめ●長谷川凜ほか	2021年5月	978-4-909658-36-4	1800円
文学・歴史・思想			
三島由紀夫は—〇代をどう生きたか—あの結末をもたらしたものに●西法太郎	2018年11月	978-4-909658-02-9	3200円
全訳 男色大鑑〈武士編〉●染谷智幸・畑中千晶編	2018年12月	978-4-909658-03-6	1800円
全訳 男色大鑑〈歌舞伎若衆編〉●染谷智幸・畑中千晶編	2019年10月	978-4-909658-04-3	1800円
紙が語る幕末出版史—『開版指針』から解き明かす●白戸 満喜子・	2018年12月	978-4-909658-05-0	9500円
二代目市川團十郎の日記にみる享保期江戸歌舞伎●ビュールク トーヴェ	2019年2月	978-4-909658-09-8	6000円
江戸の子どもの絵本—三〇〇年前の読書世界にタイムトラベル!●叢の会編	2019年4月	978-4-909658-10-4	1000円
〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典●長島弘明編	2019年5月	978-4-909658-13-5	3200円
真山青果とは何者か?●飯倉洋一・日置貴之ほか編	2019年7月	978-4-909658-15-9	2800円
注釈・考証・読解の方法—国語国文学的思考●白石良夫	2019年11月	978-4-909658-17-3	3200円
草の根歴史学の未来をどう作るか—これからの地域史研究のために●黒田智・吉岡由哲編	2020年1月	978-4-909658-18-0	2700円
薩琉軍記論—架空の琉球侵略物語はなぜ必要とされたのか●目黒将史	2019年12月	978-4-909658-20-3	15000円
怪異をつくる—日本近世怪異文化史●木場貴俊	2020年3月	978-4-909658-22-7	2800円
江戸初期の香文化—香がつなぐ文化ネットワーク●堀口悟・鈴木健夫・村田真知子編	2020年2月	978-4-909658-23-4	4500円
近世前期江戸出版文化史●速水香織	2020年2月	978-4-909658-24-1	8800円
江戸中期上方歌舞伎囃子方と音楽●前島美保	2020年2月	978-4-909658-25-8	12000円
「国文学」の批判的考察—江戸のテキストから古典を考え直す●空井伸一	2020年3月	978-4-909658-27-2	11500円
好古趣味の歴史—江戸東京からたどる●小林ふみ子・中丸宣明編著	2020年6月	978-4-909658-29-6	2800円
城壁●榛葉英治・和田敦彦	2020年6月	978-4-909658-30-2	2400円
信長徹底解説—ここまでわかった本当の姿●堀新・井上泰至編 2刷	2020年7月	978-4-909658-31-9	2700円
杞憂に終わる連句入門●鈴木千恵子	2020年6月	978-4-909658-32-6	1500円

その他の刊行図書 2022.09 現在

読書の歴史を問う―書物と読者の近代 改訂増補版●和田敦彦	2020年8月	978-4-909658-34-0	1900円
説話文学研究の最前線―説話文学会 55 周年記念・北京特別大会の記録●説話文学会編	2020年9月	978-4-909658-35-7	3000円
二十四節気で読みとく 漢詩●古川末喜 2刷	2020年10月	978-4-909658-37-1	2800円
古典の未来学―Projecting Classicism ●荒木浩編	2020年10月	978-4-909658-39-5	8000円
書誌学入門ノベル! 書医あづさの手控〈クロニクル〉●白戸満喜子	2020年12月	978-4-909658-41-8	1800円
王朝物語の表現機構―解釈の自動化への抵抗●星山 健	2021年1月	978-4-909658-42-5	6000円
近代平仮名体系の成立―明治期読本と平仮名字体意識●岡田一祐	2021年2月	978-4-909658-48-7	7000円
虚学のすすめ―基礎学の言い分●白石良夫	2021年2月	978-4-909658-49-4	1900円
自由律俳句と詩人の俳句●樽見 博	2021年3月	978-4-909658-50-0	2700円
『阿毘達磨集論』の伝承―インドからチベットへ、そして過去から未来へ●高橋晃一・根本裕史編	2021年3月	978-4-909658-51-7	2400円
これからの古典の伝え方―西鶴『男色大鑑』から考える●畑中千晶	2021年3月	978-4-909658-53-1	1900円
軍記物語と合戦の心性●佐伯真一	2021年4月	978-4-909658-54-8	10000円
言いなりにならない江戸の百姓たち―「幸谷村酒井家文書」から読み解く●渡辺尚志	2021年6月	978-4-909658-56-2	1500円
玉藻前アンソロジー―殺之巻●朝里 樹編著	2021年7月	978-4-909658-59-3	1900円
『奥の細道』の再構築●井口洋	2021年11月	978-4-909658-62-3	11000円
たたかう講談師―二代目松林伯円の幕末・明治●目時美穂	2021年11月	978-4-909658-66-1	2500円
読まなければならぬ―いまから古典を〈読む〉ために●木越治・丸井貴史編	2021年11月	978-4-909658-67-8	1900円
日本史史料研究会ボックス			
新徴組の真実にせまる―最後の組士が証言する清河八郎・浪士組・新選組・新徴組●西脇 康	2018年12月	978-4-909658-06-7	1300円
新 神風と悪党の世紀―神国日本の舞台裏●海津 一郎	2019年1月	978-4-909658-07-4	1200円
六波羅探題 研究の軌跡―研究史ハンドブック●久保田和彦	2020年1月	978-4-909658-21-0	1200円
ここまでわかった戦国時代の天皇と公家衆たち―天皇制度は存亡の危機だったのか? 新装版●神田裕理編	2020年7月	978-4-909658-33-3	1350円
戦国時代と一向一揆●竹間芳明	2021年6月	978-4-909658-55-5	1600円
幕末大江戸のおまわりさん―史料が語る新徴組●西脇 康	2021年10月	978-4-909658-65-4	1500円
REKIHAKU・国立歴史民俗博物館発行			
REKIHAKU 特集・されど歴史●山田慎也・内田順子・橋本雄太編	2020年10月	978-4-909658-38-8	1091円
REKIHAKU 特集・いまこそ、東アジア交流史●高田貫太・橋本雄太編	2021年2月	978-4-909658-43-2	1091円
REKIHAKU 特集・日記がひらく歴史のトビラ●三上喜孝・内田順子編	2021年6月	978-4-909658-57-9	1091円
REKIHAKU 特集・歴史のなかの疫病●福岡万里子・高田貫太編	2021年10月	978-4-909658-63-0	1091円
地方史はおもしろい・地方史研究協議会編			
日本の歴史を解きほぐす―地域資料からの探求●地方史研究協議会編	2020年4月	978-4-909658-28-9	1500円
日本の歴史を原点から探る―地域資料との出会い●地方史研究協議会編	2020年10月	978-4-909658-40-1	1500円
日本の歴史を問いかける―山形県〈庄内〉からの挑戦●地方史研究協議会編	2021年3月	978-4-909658-52-4	1500円
日本の歴史を描き直す―信越地域の歴史像●地方史研究協議会編	2021年9月	978-4-909658-61-6	1500円
その他			
中華オタク用語辞典●はちこ 3刷	2019年3月	978-4-909658-08-1	1800円
【呉公藻・馬岳梁版】太極拳講義●沈 剛・日高崇編著 2刷	2021年8月	978-4-909658-60-9	1300円
波多野華涯書簡集―門人濱口梧洞との往復書簡●岩田秀行・小田切マリ [私家版]	2019年3月	978-4-909658-11-1	品切れ